

総合教養科目

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	総合：必修
担当教員			
総合教養センター専任教員			
ナンバリング：G11A01	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 戸板女子短期大学の歴史を理解し、大学生としての学びの基盤を形成することで、本学の学生として必要な教養と実践力の基礎作りをする。 (授業目標) ◎A：ものごとに対する興味と問題意識を持ち、仲間とともに積極的に課題に取り組むことができる。 B：自律した精神をもち他者と関わることができる。 ○C：そのときどきの状況を理解し、適切な判断のもとに行動することができる。 D：本学の歴史・教育理念を理解する。 D：短大生活を送るうえで必要とされるルール、スタディスキルを身につける。 E：ふさわしい手法を用いて自分の考えを論理的に表現できる。
授業計画	<p>1 戸板ゼミ概要、避難訓練 学長講演 戸板ゼミナールに関するガイダンス（白川） 本学の避難経路の説明（吉川・苗村）</p> <p>2 学科別プログラム 履修に関するガイダンス 学則に関するガイダンス （服飾：大滝・井上・楠・高橋、 食物：谷口・吉川・川嶋・高橋真・北村、 国際：別宮）</p> <p>3 初年次教育1 対面授業：マナー講座 対面プログラム①（ゲスト講師） オンライン授業：マナー講座 オンラインプログラム（ゲスト講師）</p> <p>4 初年次教育2 対面授業：マナー講座 対面プログラム①（ゲスト講師） オンライン授業：マナー講座 オンラインプログラム（ゲスト講師）</p> <p>5 初年次教育3 対面授業：マナー講座 対面プログラム②（ゲスト講師） オンライン授業：大学生の倫理（白川）</p> <p>6 初年次教育4 対面授業：マナー講座 対面プログラム②（ゲスト講師） オンライン授業：大学生の倫理（白川）</p> <p>7 特別講演1（ゲスト講師） 東京オリンピック・パラリンピックに向けて（ゲスト講師） TOITA Fes.説明（学生部） 産学連携ワーク案内（総合教養教員他担当者）</p> <p>8 産学連携授業1 企業からの説明 企画考案（総合教養教員他担当者）</p> <p>9 産学連携授業2（グループワーク：グループワークシート完成） グループワークシート完成（総合教養教員他担当者）</p> <p>10 産学連携授業3（グループワーク：グループディスカッション） グループディスカッション（総合教養教員他担当者）</p> <p>11 産学連携授業4（グループワーク：発表準備） 発表資料作成、プレゼン原稿作成など発表準備（総合教養教員他担当者）</p> <p>12 産学連携授業5（プレゼンテーション：プレゼンテーション大会予選） プレゼンテーション大会予選（総合教養教員他担当者）</p> <p>13 特別講演2（ゲスト講師） 金融教育（ゲスト講師）</p> <p>14 産学連携授業6（プレゼンテーション：プレゼンテーション大会決勝） プレゼンテーション大会決勝（総合教養教員他担当者）</p> <p>15 学科別プログラム2 服飾芸術科：夏期休暇に関する注意事項 / 各履修モデルによるプレゼンテーション（大滝・井上・楠・高橋） 食物栄養科：夏期休暇に関する注意事項 / 定期試験諸注意（谷口・吉川・川嶋・高橋・北村） 国際コミュニケーション学科：夏期休暇に関する注意事項 / 各履修モデルによるプレゼンテーション（木内）</p>
学習成果・到達目標・基準	◎A：ひとつひとつの課題に最後まで真摯に取り組むことができる。 B：自分の役割を果たす努力をしながらグループワークに参加することができる。 ○C：そのときどきの状況で適切とされる行動が何かを考える習慣を身につける。

	<p>D：本学の教育理念を簡単に説明することができる。 短大生活を送るうえで必要とされるルール、スタディスキルを行動に移すことができる。</p> <p>E：自分の考えを整理してから相手に伝えることができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：プログラム、担当者等によるため、授業担当者の指示にしたがうこと。(30分程度)</p> <p>事後学習：プログラム、担当者等によるため、授業担当者の指示にしたがうこと。(30分程度)</p>
指導方法	<p>講義、グループワーク、講演、産学連携プログラム等、さまざまな手法の授業となる。1年生前期の授業であるため、学生生活に関する注意事項や説明なども行う。初年次教育1～4については、各学科とも4グループに分かれ、4週にわたってプログラムを受講するので、自分のグループを把握して受講すること。</p> <p>課題配布、提出は主にGoogle Classroomを使用する。</p> <p>フィードバックの仕方：各プログラムによる。担当教員、ゲスト講師や連携企業からの総括したフィードバックのほか、必要に応じて個別にコメントする。質問があった場合には、個別に対応する。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>A：課題、授業への貢献度を評価する。</p> <p>B：課題、授業への貢献度を評価する。</p> <p>C：課題、授業への貢献度を評価する。</p> <p>D：課題によって評価する。</p> <p>E：課題、授業への貢献度を評価する。</p> <p>授業への貢献度50%、課題50%</p>
テキスト	<p>【マナー講座】テキスト「マナー演習」 発行元：株式会社アッサンブラージュ 2021年1月改訂版</p> <p>その他の講座では適宜プリント等の資料を配布する。</p>
参考書	<p>総合教養センターが推薦している図書（図書館及び総合教養センターに設置）、ゲスト講師推薦の図書</p>
履修上の注意	<p>学科、クラス、学籍番号によって、スケジュール、受講教室などが異なることが多いため、毎回連絡を各自でしっかり確認し、まちがえることのないよう出席すること。対面授業の際は、座席確認・着席の時間も考えて早めに移動し、遅刻のないようにすること。</p>
アクティブ・ラーニング	<p>グループワーク、プレゼンテーション</p>
ICT・オープンエデュケーションの活用	<p>Google Classroom</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	総合：必修
担当教員			
吉川尚志、白川はるひ、苗村晶彦、村木桂子			
ナンバリング：G11A02	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 大学における専門科目を学ぶためだけでなく、就職試験に向けて、また社会人としての礎を築くため、基礎となる計数分野と言語分野を学修する。 (授業目標) ○C：課題への取り組みを通して大学生としてふさわしい論理的思考力を身につける。 ◎D：一般的な就職試験問題を無理なく解くことができる。		
授業計画	1	計数1 計算の工夫①、和差算	
	2	計数2 計算の工夫②、年齢算	
	3	計数3 計算の工夫③	
	4	計数4 一次方程式、連立方程式、植木算	
	5	計数5 単位の変換と割合、方陣算	
	6	計数6 単位と割合、相当算、代金の計算、数列	
	7	計数7 損益算、周期算	
	8	言語1 小テスト：漢字書き取り 文章表現演習：400字作文 演習問題：二語の対応、熟語の意味 (ICTの活用：e-learningにて事前学修)	
	9	言語2 (ペア・ワーク) 小テスト：二語の対応、熟語の意味 図書館の使い方、文献検索の方法 (初年次教育) 文章表現演習：文章校正・文章表現・文字表記 (初年次教育) 演習問題：対義語・類義語 (ICTの活用：e-learningにて事後学修)	
	10	言語3 小テスト：対義語・類義語 文章表現演習：クリティカルシンキング 演習問題：四字熟語	
	11	言語4 (グループ・ワーク) 小テスト：四字熟語 文章表現演習：リーディング (1) 新聞に親しむ 演習問題：同音異義・同訓異字	
	12	言語5 小テスト：同音異義・同訓異字 文章表現演習：リーディング (2) 学術的な文章を読む 演習問題：難読漢字	
	13	言語6 小テスト：難読漢字 文章表現演習：ライティング (1) 情報整理 演習問題：慣用句	
	14	言語7 小テスト：慣用句 文章表現演習：ライティング (2) 論理的文章の書きかた 演習問題：漢字書き取り、ことわざ・故事成語	
	15	テストセンター模擬試験 計数分野および言語分野の模擬試験 (ICTの活用：e-learning)	

学習成果・到達目標・基準	○C：基礎問題の解法について、順序だてて説明することができる。 論理的な文章の基本型を理解し、書き上げることができる。 ◎D：基礎的な就職試験問題を解くことができる。
事前・事後学習	事前学習 【計数】授業内容を予習する。(30分程度) 【言語】小テストに向け、事前配布したプリントやe-learning上の指示された課題に取り組む。(60分程度) 事後学習 【計数】前回の課題プリントの解きなおしと各回の課題プリントを仕上げを、総合教養センターで検印をもらうまでしっかり取り組む。(60分程度) 【言語】授業内容を復習する。小テストは合格点に達するまで繰り返し復習する。文章課題を完成させる。(60分程度) ※<重要> 毎週、期限内に1F・総合教養センター、あるいはGoogle Classroomへ課題を提出する(計数・言語とも)。
指導方法	履修学生を8クラスに分け、計数と言語を指導する。 オンライン受講の学生には、教室の授業をZoomでライブ配信する。 クラスによって、計数と言語の順番は異なる。 【計数】授業では毎回、課題を課すので、それを週内に提出する。希望者には自学用演習プリントを追加配布する。 【言語】毎回、授業開始時に小テストを実施する。パワーポイントを使用しての講義と演習が基本であるが、ペアワークやグループワークを行う場合もある。授業で出された課題は週内に提出する。 フィードバックの仕方：小テストは採点后、再提出・再テストの指示を明記した状態で返却する。作文には全体に対して総括のコメントを行うとともに、必要に応じて個別に指導する。 ※課題に関する質問には個別に総合教養センターにて対応する(計数・言語とも)。
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：課題の提出状況と定期試験で評価する。 D：課題の提出状況と定期試験で評価する。 定期試験 50%、平常点(授業貢献度、課題) 50%
テキスト	【計数】テキスト：毎回プリントを配布する。 【言語】テキスト：毎回プリントを配布する。
参考書	『2022最新版 史上最強SPI&テストセンター超実戦問題集』オフィス海著(ナツメ社) 『レポート・論文の書き方入門 第3版』河野哲也著(慶応義塾大学出版会)
履修上の注意	【計数】プリントの枚数が多くなるので、A4サイズの二穴バインダーを準備し、プリントをファイリングすること。また、そのバインダーは毎回期日までに提出すること。 【言語】プリントの枚数が多くなるので、A4サイズのファイルを準備し、プリントをファイリングすること。 ※やむを得ず授業を欠席した場合は、授業で配布したプリントを速やかに1F・総合教養センターまで取りに行き指示に従うこと(数学・国語とも)。 ※学習内容の定着のために夏期セミナーの受講を勧める。
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、グループワーク
ICT・オープンエデュケーションの活用	e-learning教材、Google Classroom

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	総合：必修
担当教員			
吉川尚志、白川はるひ、苗村晶彦、村木桂子、山内明美、中山宏子			
ナンバリング：G12A03	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業内容) 就職試験にむけて、また社会人としての礎を築くため、マナー、SPI非言語、SPI言語等を学修する。マナー講座では、前期に学んだマナーが就職活動で活かせるよう、ステップに沿って面接マナーを練習する。また、企業側の視点に立ち、コミュニケーション力、発信力、対話力を磨いていく。SPI非言語、言語では演習問題を解く力、自己PR文を書く力をつけつつ、それらの演習を通して論理的に考える力を養う。 (授業目標) 【マナー講座】 B：信頼感を与える話し方、積極的な聞く姿勢を身に付け、マニュアル通りではない会話が出来るようになる。 ○E：戸板女子短期大学の代表として相応しい訪問マナーを習得する。 【SPI非言語】【SPI言語】 C：適切な方法を用いてSPI演習問題の正解を導き出すことができる。 D：説得力のある自己PR文を書くことができる。 ◎D：一般的な就職試験問題を無理なく解くことができる。
授業計画	1 マナー講座1 オリエンテーション (講義のゴール確認と約束/来客訪問の流れ/演習：挨拶の口上) ・講義のゴールと講義中の4つのルールを理解する。 ・来客訪問時の流れと留意点を学ぶ。 ・訪問時の取り次ぎ依頼～ご案内・入室(訪問バージョン)までをロールプレイで体得する。 ・復習：Google Classroomで課題取り組み(30分) 予習：お茶の出し方/いただき方動画視聴(20分) 2 マナー講座2 来客訪問(面接バージョン) ・前回振り返り：挨拶の口上ロールプレイ ・上座の原則を理解し、TPO(エレベーター/通路/席次等)に応じ配慮ある行動が取れるようになる。 ・きき方5ポイントを覚え、積極的に話をきく姿勢を身につける。 ・面接官への挨拶～自己紹介～辞去の挨拶～退室までの一連の流れをロールプレイで体得する。 ・復習：Google Classroomで課題取り組み(30分) 予習：電話対応の動画を視聴し、台本作成 3 マナー講座3 ホスピタリティコミュニケーション1(演習：挨拶のTPO就活編) ・前回振り返り：面接官への挨拶～自己紹介～辞去の挨拶～退室までの一連の流れをロールプレイ ・マニュアル通りの言葉かけではない会話が出来るよう自分の言葉で話す練習をする。 ・面接やインターンシップ等、接点時に好印象を与えるキーワードを覚えロールプレで体得する。 ・復習：Google Classroomで課題取り組み(30分) 予習：動画を視聴し、レポート提出(30分) 4 マナー講座4 ホスピタリティコミュニケーション ・前回振り返り：面接やインターンシップ等、接点時に好印象を与えるキーワードを覚えロールプレで体得する。 ・サービスとホスピタリティの違いを理解し、プラスαの対応力を磨き、実践力を身につける。 ・復習：Google Classroomで課題取り組み(30分) 予習：言葉遣い小テスト 5 マナー講座5 ビジネス文書の書き方/場面に応じた服装/業界が求める人材 ・ビジネス文書の型を覚え、ビジネスルールに則った電子メールが送れるようになる。 ・場面に応じた服装での留意点を理解し、常に好印象を与える自己演出法を覚える。 ・業界で求められる対応力、人材を研究し、現場での流れを体験し、自分のキャリアイメージに繋げる。 ・復習：Google Classroomでレポート提出 6 SPI非言語1 鶴亀算 7 SPI非言語2 速さの問題 8 SPI非言語3 濃度算 9 SPI非言語4 仕事算 10 SPI非言語5 場合の数、確率 11 SPI言語1 小テスト：対義語・類義語 文書表現演習：自己PR文の書き方(グループワーク) 演習問題：四字熟語、語句の用法 (ICTの活用：e-learningにて事後学習)

	<p>12 SPI言語2 小テスト：四字熟語、語句の用法 文章表現演習：自己PR文を使ったワーク（グループワーク） 演習問題：同音異義・同訓異字、熟語の成り立ち （ICTの活用：e-learningにて事後学習）</p> <p>13 SPI言語3 小テスト：同音異義・同訓異字 文章表現演習：「学生時代に力を入れたこと」の書き方 演習問題：ことわざ、故事成語、文章の並べ替え （ICTの活用：e-learningにて事後学習）</p> <p>14 SPI言語4 小テスト：ことわざ、故事成語 文章表現演習：「学生時代に力を入れたこと」の文章推敲、仕上げ 演習問題：誤字直し、3文完成 （ICTの活用：e-learningにて事後学習）</p> <p>15 SPI言語5 小テスト：誤字直し ミニビブリオバトル（プレゼンテーション） 演習問題：難読漢字、SPI言語総合演習問題</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>【マナー講座】 B：明るい声で話し、相手の話に反応を示しながら会話ができる。 ○E：丁寧なお辞儀、好印象を与える笑顔や身だしなみ、傾聴の姿勢などで礼儀正しい印象を持たせることができる。</p> <p>【SPI非言語】 【SPI言語】 C：SPI標準問題の解法について、順序だてて説明することができる。 D：自己PR文の基本型を理解し書き上げることができる。 ◎D：標準的な就職試験問題を解くことができる。</p>
事前・事後学習	<p>【マナー講座】 事前学習：動画で事前に視聴し、基本形を知った上で授業に臨む。（30分程度） 事後学習：授業終了毎に事後学習をし、反復練習する。テーマごとの事例研究でポイントを整理しておく。（60分程度）</p> <p>【SPI非言語】 事前学習：授業内容を予習する。（30分程度） 事後学習：前回のプリントの解き直しとその回の課題プリントを仕上げ、総合教養センターで検印をもらうまでしっかり取り組む。（60分程度）</p> <p>【SPI言語】 事前学習：小テストに向けてプリントやe-learningの課題に取り組む。（60分程度） 事後学習：授業内容を復習する。小テストは合格点に達するまで繰り返し復習する。（60分程度）</p> <p>※<重要> SPI非言語・言語の授業については、毎週、期限内にGoogle Classroom、あるいは1F・総合教養センターへ課題を提出する。</p>
指導方法	<p>履修学生を12クラスに分け、マナー講座、SPI非言語、SPI言語の3つのプログラムを5週ずつ指導する。クラスによってプログラムの順番は異なる。 自宅受講の学生には、教室の授業をZoomでライブ配信する。</p> <p>【マナー講座】 Google Classroomと対面授業で指導 ・①事前学習でテーマ毎に動画を視聴、②対面授業で再度手本を示し、③ステップに沿ってロールプレイで体得、④学生相互で評価、⑤必要に応じ理想とする基準を再度手本で示し、理解を深める。 ・事後学習で①課題に取り組み提出、②小テストの場合は結果にコメント記載し返却、③授業内で質疑応答に応じ、ポイントをアドバイス。</p> <p>【SPI非言語】 授業では毎回課題を課すので、それを週内に提出する。希望者には自学用演習プリントを追加配布する。</p> <p>【SPI言語】 毎回、授業開始時に小テストを実施する。語彙力や文章力を伸ばすために、授業は講義と演習にて行う。パワーポイントを使用しての講義、ペア学習やグループ学習を行う場合もある。授業で出された課題は期限を守り提出する。 フィードバックの仕方：小テストはその日のうちに採点し、再提出・再テストの指示を明記した状態で総合教養センターにて返却する。提出された文章課題には必要に応じて個別の添削指導等に対応する。</p> <p>※課題に関する質問には個別に総合教養センターにて対応する（非言語・言語とも）。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>【マナー講座】 B：普段の授業での声の大きさや返事及び授業を聴く態度で評価する。 E：普段の授業での挨拶のお辞儀、立ち居振る舞い、授業内での演習発表にて評価する。 ロールプレイ・プレゼンテーション 30% 授業態度・授業への貢献度 30% 小テスト・レポートの内容・期限遵守 40%</p> <p>【SPI非言語】 C：課題の提出状況と定期試験で評価する。 D：課題の提出状況と定期試験で評価する。 定期試験 50%、平常点（受講貢献度、課題）50%</p> <p>【SPI言語】 C：課題の提出状況と定期試験で評価する。</p>

	<p>D：課題の提出状況と定期試験で評価する。 定期試験 50%、平常点（受講貢献度、課題）50%</p> <p>※3のプログラムの合計点を100点換算し成績評価する。換算後の点数が60点以上であっても、どれか1つのプログラムが0点の場合は単位修得とはならない。</p>
テキスト	<p>【マナー講座】テキスト「マナー演習」 発行元：株式会社アッサンブラージュ 2021年1月改訂版 【SPI非言語】 毎回プリントを配布する 【SPI言語】 毎回プリントを配布する</p>
参考書	SPI非言語・言語：『2022最新版 史上最強SPI&テストセンター超実戦問題集』オフィス海著(ナツメ社)
履修上の注意	<p>【マナー講座】 マナーとは国際的にも通用するコミュニケーションです。授業を通じて何故必要かを理解しながら習得することで、意識せずに自然に表現できるようになります。今回は就職活動に活かすことを目的としていますが、社会に出ても一生役に立つ内容です。ホスピタリティコミュニケーションのロールプレイでは、自分の気持ちを言葉や動作で表すことで体験からの気づきが大きく臨機応変な現場力に繋がります。基本の習得には反復練習が効果的なので、授業以外でもマナーを意識しましょう！</p> <p>【SPI非言語】 プリントの枚数が多くなるので、A4サイズの二穴バインダーを準備し、プリントを順次ファイリングすること。また、そのバインダーは毎回期日までに提出すること。</p> <p>【SPI言語】 プリントの枚数が多くなるので、A4サイズのファイルを準備し、プリントをファイリングすること。</p> <p>※SPI非言語・言語とも、やむを得ず欠席した場合は、授業で配布したプリントを速やかに1F・総合教養センターまで取りに行き指示に従うこと。 ※学習内容の定着のために春期セミナーの受講を勧める。</p>
アクティブ・ラーニング	<p>【マナー講座】 課題解決型学習、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、相互フィードバック</p> <p>【SPI言語】 ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーション</p>
ICT・オープンエデュケーションの活用	<p>【マナー講座】 スマートフォン、タブレット、PC、YouTubeを活用する。 ・授業前後でマナーの基本要素を理解するために動画、YouTubeを活用し習得に繋げる。 ・授業内外での理解を図るため、Google Classroomを活用する。 ・授業内で相互評価を可視化するためにGoogle Classroom、ビデオ撮影を活用する。 ・アンケートによりリアルタイムで学生の業界への具体的な興味を把握するためGoogle Classroomを活用する。</p> <p>【SPI非言語】 【SPI言語】 ・e-learning教材の活用 ・Google Classroomでの課題配信・課題提出</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	総合：選択
担当教員			
白川はるひ			
ナンバリング：G12C05	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 自らのキャリア形成を考えるための入門編的授業である。労働市場や業界・職種・企業について、就職活動や社会人として求められる力について、また、自分自身について理解を深めていく。 (授業目標) 社会情勢を客観的にとらえながら自分自身の生き方を多角的に考え、一生続くキャリア(=生き方)選択の力を養う。 ◎A：自らの目標を明確に掲げて学びの計画をたて、その計画に基づいた実践と省察を繰り返すことができる。 ○C：社会情勢、労働、キャリア理論、および自己に対する理解を深め、卒業後の自らの生き方をより明確にする。
授業計画	<p>1 授業ガイダンス 【全員自宅受講 ZOOM】 ・授業に関するガイダンス ・キャリアデザインとは</p> <p>2 自己分析1 あるいは 目標の立て方(グループワーク) 【教室受講】自己分析テストの実施 【自宅受講】(ZOOM)目標の立て方、社会が求める力</p> <p>3 自己分析1 あるいは 目標の立て方(グループワーク) 【教室受講】自己分析テストの実施 【自宅受講】(ZOOM)目標の立て方、社会が求める力</p> <p>4 就職活動の流れ あるいは 学習スタイルを知る(グループワーク) 【教室受講】就職活動の流れ(キャリアセンターより) 【自宅受講】(ZOOM)学習スタイルと自律的学習力</p> <p>5 就職活動の流れ あるいは 学習スタイルを知る(グループワーク) 【教室受講】就職活動の流れ(キャリアセンターより) 【自宅受講】(ZOOM)学習スタイルと自律的学習力</p> <p>6 自己分析2 あるいは 自己分析3(グループワーク) 【教室受講】タイムマネジメント、PDCA、コーチング 【自宅受講】(Google Classroom)価値観を考える</p> <p>7 自己分析2 あるいは 自己分析3(グループワーク) 【教室受講】タイムマネジメント、PDCA、コーチング 【自宅受講】(Google Classroom)価値観を考える</p> <p>8 人生100年時代の生き方1(ゲスト講師) 【教室受講】事例から学ぶこれからの時代のキャリア形成、今後の労働市場について 【自宅受講】(ZOOM)同上</p> <p>9 就活サイトの使い方および自己分析4(グループワーク) あるいは 人生100年時代の生き方2 【教室受講】就活サイトの使い方、インターンシップについて(キャリアセンターより) 自己分析テストの結果と解説 【自宅受講】(Google Classroom)人生100年時代の生き方2(ライフプラン)</p> <p>10 就活サイトの使い方および自己分析4(グループワーク) あるいは 人生100年時代の生き方2 【教室受講】就活サイトの使い方、インターンシップについて(キャリアセンターより) 自己分析テストの結果と解説 【自宅受講】(Google Classroom)人生100年時代の生き方2(ライフプラン)</p> <p>11 就職試験について 【教室受講】就職試験について 【自宅受講】(ZOOM)同上</p> <p>12 業界・企業・職種研究1(ゲスト講師)(グループワーク) 【教室受講】業界への理解を深める 【自宅受講】(ZOOM)同上</p> <p>13 業界・企業・職種研究2(ゲスト講師)(グループワーク) 【教室受講】企業・職種への理解を深める 【自宅受講】(ZOOM)同上</p> <p>14 前期の省察と今後のキャリア計画1(グループワーク)(プレゼンテーション) 【教室受講】前期の省察と今後のキャリア計画(発表) 【自宅受講】(Google Classroom)前期の省察と今後のキャリア計画(課題作成)</p> <p>15 前期の省察と今後のキャリア計画2(グループワーク)(プレゼンテーション) 【教室受講】前期の省察と今後のキャリア計画(発表) 【自宅受講】(Google Classroom)前期の省察と今後のキャリア計画(課題作成)</p>
学習成果・到達目標・基準	◎A：目標にむけた計画書を作成し、その実践結果を省察することができる。 ○C：社会の現状、業界や自分自身に関する理解等をもとに、後期の学修計画について説明することができる。

事前・事後学習	<p>事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1週間の自らの成長（学び、気づき、挑戦など）についての整理（30分） ・配布された課題文の読みこみ あるいは ワークシートへの書きこみ（60分） <p>事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らたてた行動計画の実践に関してのふりかえり（30分） ・授業内で指示された事後課題（確認テスト、ふりかえり、ワークシートなど）への取り組み（60分程度）
指導方法	<p>授業は主に、講義、個人ワーク、グループワークで進められる。 授業で学び、考え、計画をたてて実行し、それらをふりかえって次の授業に臨むという一連の流れが求められる。 卒業後の目標をより具体的にし、前期の自らの成長について説明する。 配布物はすべてファイリングし、最終的にポートフォリオとして完成させる。</p> <p>フィードバックの方法： 提出物に対しては、必要に応じ全体講評を通してフィードバックする。質問には適宜応じる。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>A：最終課題、提出物、授業貢献度によって評価する C：最終課題、提出物、小テストによって評価する</p> <p>最終課題30% 平常点70%（提出物60%、授業への貢献度10%）</p>
テキスト	無し。適宜プリントを配布する。
参考書	<p>大宮登 著『理論と実践で自己決定力を伸ばす キャリアデザイン講座 第2版』日経PB社, 2014 吉田あけみ 編著『ライフスタイルからみたキャリア・デザイン』ミネルヴァ書房, 2014 村山昇 著『働き方の哲学』ディスカヴァー・トゥエンティワン, 2018 他</p>
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークの多い授業である。履修者全員の力が伸びるよう、協力的に参加すること。 ・やむを得ず欠席をした場合は、総合教養センターまで配布物をとりにいくこと。 ・2穴ファイルを用意すること
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション
ICT・オープンエデュケーションの活用	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	総合：選択
担当教員			
苗村晶彦			
Subject Code : G13C06	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 入学後の学生生活、就職活動、そして卒業後の社会での生活など、今後、さまざまな場面で必要不可欠となるプレゼンテーションスキルについて基礎的なことを学ぶ授業である。多くの学生が持つ「プレゼンテーションに対する苦手意識」を払拭し「プレゼンテーションの魅力」に気づき、理解してもらうため、わかりやすく楽しく能動的に学べる内容とする。 (授業目標) プレゼンテーションの多様なスキルを正しく理解し、状況に応じて使い分けることで、自己の主張を正しく相手に伝え、相手の主張を正確に理解すること。 ○B 自己の主張を正確に相手に伝え、相手の主張を正確に理解することができる ◎E 習得したスキルを状況に応じて的確に選択し表現手法として活用することができる
授業計画	1 オリエンテーション 授業ガイダンス 円滑な受講のための準備 2 プレゼンテーションの定義（講義・演習） プレゼンの定義を理解するための演習① 3 プレゼンテーションの基礎①（演習） プレゼン嫌いの原因を探る演習 4 プレゼンテーションの基礎②（演習） プレゼン嫌いを払拭するための演習 5 プレゼンテーションの基礎③（演習） 時間間隔を認識するための演習 6 プレゼンテーションの基礎④（演習） 時間内に発表するための演習 7 プレゼンテーションの基礎⑤（演習） 質問力を高めるための演習 8 プレゼンテーションの理解①（個人発表） 個人でのプレゼン発表 (ICTの活用：スマートフォン あるいは タブレットPC) 9 プレゼンテーションの理解②（フィードバック） 前回の各人の発表を検証 10 プレゼンテーションの理解③（演習） グループワーク「正面から考える」 11 プレゼンテーションの理解④（演習） グループワーク「逆から考える」 12 プレゼンテーションの応用①（グループワーク） 発表内容のベース作成 13 プレゼンテーションの応用②（グループワーク） 発表内容のブラッシュアップ 14 プレゼンテーションの応用③（グループ発表） テーマに沿った発表 (ICTの活用：スマートフォン あるいは タブレットPC) 15 まとめ 授業に関する感想と各自の成長について発表
学習成果・到達目標・基準	○B プレゼンテーションスキルを駆使し他者とコミュニケーションをとることができる ◎E 状況に応じた的確なプレゼンテーションスキルを選択し表現することができる
事前・事後学習	事前学習：毎回の授業後半に発表する次回の授業テーマについて、自己で内容を推測し、関連する映像資料等を視聴する（60分程度）。 事後学習：毎回の授業内容に関して自己で振り返る（60分程度）。また、他の授業や普段の生活において、習得したスキルを積極的に活用する。
指導方法	講義は基本的にパワーポイントを使用して進める。一方的な講義ではなく、グループワークを積極的に取り入れる。個人発表、グループ発表についても予定している。 フィードバックの仕方：課題については、次回の授業で全員に対応する。 オンライン受講の学生には、教室の授業をZoomでライブ配信する。

アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	B グループワークでの積極性と毎回の授業レポートを総合的に評価する。 E 個人発表とグループ発表の内容を総合的に評価する。 授業への積極的な参加30%、課題の取組み30%、プレゼンテーション発表40%
テキスト	無し。適宜プリントを配布する。
参考書	無し。
履修上の注意	必要と認めた場合以外でのスマートフォンの使用、無用な飲食等、消極的な授業への参加とみなされる場合は出席と認めないので注意すること。また、グループワークにおいてはグループの和を乱すような態度や言動を慎むこと。プレゼンテーションスキルは個人差が大きいため、各自が自分の現在のレベルを正しく認識し、成長可能な目標を各自が掲げ、目標達成を積極的に目指してほしい。
アクティブ・ラー ニング	グループワーク ディスカッション プレゼンテーション
I C T・オープン エデュケーション の活用	スマートフォン タブレットPC

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	総合：選択
担当教員			
千葉佳織、白川はるひ、中村公子、村木桂子、高橋佳子			
ナンバリング：G23C06	B 対面+Classroom併用型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 「話す技術」を培うことは、学校生活や就職活動、卒業後の社会生活を充実させるために必須である。社会において必要不可欠なスキルをプレゼンテーション・スピーチ学習を通して習得する。「話すことが楽しい」「話すことが得意になった」と感じられるような豊富な実践を含んだ授業となる。 (授業目標) ◎C プレゼンテーション作成の過程で自身の思考を整理し、唯一無二の語り手になる ◎E 習得したスキルを状況に応じて的確に選択し、表現手法として活用することができる
授業計画	1 ガイダンス (Zoom) 授業内容、進め方の説明、講師の自己紹介 2 対面：発声練習・腹式呼吸・朗読 Classroom：自己紹介 対面：大きな声を自然に出すための発声練習、表現の基礎を学ぶための朗読演習 Classroom：自分の経験を深く掘り下げ、魅力的に語る 3 対面：発声練習・腹式呼吸・朗読 Classroom：自己紹介 対面：大きな声を自然に出すための発声練習、表現の基礎を学ぶための朗読演習 Classroom：自分の経験を深く掘り下げ、魅力的に語る 4 対面：ファクトとストーリーを意識した構成 Classroom：講師のスピーチ視聴 対面：説得力のある話の構成を学ぶ Classroom：プロのスピーチを動画視聴する 5 対面：ファクトとストーリーを意識した構成 Classroom：1分間スピーチ実践 対面：説得力のある話の構成を学ぶ Classroom：1分間スピーチを何度も実践する 6 対面：間とフィラー・印象的な冒頭の作成 Classroom：1分間スピーチ実践 対面：堂々とした話し方を身につける Classroom：1分間スピーチを何度も実践する 7 対面：間とフィラー・印象的な冒頭の作成 Classroom：原稿の書き方・原稿の作成 対面：堂々とした話し方を身につける Classroom：原稿の書き方を学び、最終発表用の原稿を作成する 8 対面：ビビッドワード・初稿フィードバック Classroom：原稿の書き方・原稿の作成 対面：相手の印象に残る言葉の作り方を学び、発表原稿を推敲する Classroom：原稿の書き方を学び、最終発表用の原稿を作成する 9 対面：ビビッドワード・初稿フィードバック Classroom：フィードバックの仕方・フィードバック実践 対面：相手の印象に残る言葉の作り方を学び、発表原稿を推敲する Classroom：人の話を聞いた際の適切なフィードバック方法を学ぶ 10 対面：ジェスチャー・2稿フィードバック Classroom：フィードバックの仕方・フィードバック実践 対面：プレゼンテーションの視覚的な魅力を磨き、発表原稿を推敲する Classroom：人の話を聞いた際の適切なフィードバック方法を学ぶ 11 対面：ジェスチャー・2稿フィードバック Classroom：スピーチ中の立ち位置の変化と効果 対面：プレゼンテーションの視覚的な魅力を磨き、発表原稿を推敲する Classroom：プレゼンテーションの視覚的な魅力を磨く 12 対面：即興学習 ※予選会 Classroom：スピーチ中の立ち位置の変化と効果 対面：即興で話す練習をする ※参加人数が10名以上の場合は予選会を実施し、最終発表会に向けたグループ作成・発表者を決定する Classroom：プレゼンテーションの視覚的な魅力を磨く 13 対面：即興学習 ※予選会 Classroom：講師のスピーチ視聴 対面：即興で話す練習をする ※参加人数が10名以上の場合は予選会を実施し、最終発表会に向けたグループ作成・発表者を決定する Classroom：プロのスピーチを動画視聴する 14 対面：最終発表 (ホール) Classroom：自分の原稿を分析する 対面：学習成果を発表する Classroom：自身の学習成果をまとめる 15 対面：最終発表 (ホール) Classroom：自分の原稿を分析する 対面：学習成果を発表する Classroom：自身の学習成果をまとめる

学習成果・到達目標・基準	○C プレゼンテーションを自分で考え、まとめ、発表することができる ◎E 状況に応じた的確なプレゼンテーションを行うことができる
事前・事後学習	事前学習：前回授業の内容を授業スライドを見て復習する（30分） 事後学習：毎回の授業課題に取り組む（30分）
指導方法	対面授業は基本的にパワーポイントを使用して進める。一方的な講義ではなく実践時間を積極的に取り入れ、毎回発表を行う。 クラスを半分に分け、対面授業とGoogle Classroomを交互に使い、学習を進める。 フィードバックの仕方：課題については、次回の授業で全員に対応する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	C 授業課題の一つである発表原稿と、期末の分析レポートを総合的に評価する。 E 授業内で行う個人発表、グループ発表、および授業課題の提出動画を、内容と表現力から総合的に評価する。 授業内の発表および課題提出30%、期末分析レポート20%、最終発表50%
テキスト	なし。適宜プリントを配布する。
参考書	なし。
履修上の注意	プレゼンテーションスキルは個人差が大きいため、各自が自分の現在のレベルを正しく認識し、成長可能な目標を各自が掲げ、目標達成を積極的に目指してほしい。
アクティブ・ラーニング	グループワーク・ディスカッション・プレゼンテーション
ICT・オープンエデュケーションの活用	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
小野田奈穂、眞柄翔太			
ナンバリング：G13C07	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 心理学は、人の心のはたらきを研究する学問であり、学習心理学・発達心理学・性格心理学・社会心理学・臨床心理学等、多様な領域にわたる。多様な領域の中から、学生の関心が高く、また学生と関わりが深いと思われるテーマを選び、そのテーマについての理論や概念を学ぶ。日常生活に関連するような内容も含まれているので、各自考えを深め、生活の中で応用できるように具体的な例を多く出しながら講義をすすめる。 (授業目標) ○B：対人関係にまつわる心理学の理論を通じて、人の話を聴き、自分の考えを上手に伝える力を身につける。 ◎C：日常生活における様々な物事について新しい視点を知ること、物事を多面的に深く考えられるようになる。
授業計画	1 オリエンテーション 心理学とはどのような学問か？ 2 動機付け “やる気”のこころの働きを知る 3 マインドフルネス マインドフルネスの考え方から心のほぐし方を学ぶ 4 感覚・知覚・認知 人はどのように環境や情報を捉えているのか 5 発達 人の発達を学ぶ 6 青年期の心理 青年期特有の心理発達を学ぶ 7 性格 「人生の木」から見つめなおす 8 対人関係と恋愛心理 心理学の視点から対人関係と恋愛について考える 9 対人関係とコミュニケーション① 自分の気持ちを上手に伝える方法を考える 10 社会の中の心理 人の態度(考え・評価)が変わるときとは 11 集団の心理 集団の力で起こる心理を学ぶ 12 ストレスの心理学 ストレスの仕組みと対処を考える 13 心理療法から学ぶ 日常生活での工夫を学ぶ 14 勉強を頑張るコツ 勉強を頑張るコツを心理学の視点から考える 15 対人関係とコミュニケーション② 人の話を上手に聴く方法を考える
学習成果・到達目標・基準	○B：実際の対人関係の場において、上手なコミュニケーションのための工夫を取り入れて応用できる。 ◎C：日常生活で当たり前として考えることになかったような物事にも違う視点があるということを知り、視野を広げて捉えることができる。
事前・事後学習	事前学習：生活の中で生じる疑問や相談したいような気がかりなことについて意識して考えてみる。(90分) 事後学習：自身の生活に照らし合わせながら、講義の内容を振り返る。日常生活に取り入れられそうなことを実践してみる。(90分)
指導方法	授業は原則として、プロジェクターを使用し、パワーポイントや図表等を示し、それに沿った講義を行う。また、心理学という学問を体験的に理解できるよう、簡単な心理検査等を体験できるようにする。ワークシートを使って日常生活に応用できるよう練習する。講義終了時に、毎回コメントペーパーを書かせ、疑問の解消や講義のふりかえりと整理を行えるようにする。 フィードバックの方法：コメントペーパーに書かれた疑問点や質問には次の回で答えるか、学生に問いかけて解決していく。

アセスメント・成績評価の方法・基準	B：受講態度（コメントペーパー含む）とレポート課題を評価する。 C：受講態度（コメントペーパー含む）とレポート課題を評価する。 レポート課題70% 受講態度（コメントペーパー含む）30%
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考書	『心理学』 東京大学出版会 『心理学の基礎 改訂版』 培風館
履修上の注意	他者の心理を読み取る術や他者を操作する方法などは心理学の学問ではないことを理解して受講すること（講義内容にもこのような内容は含まれていない）。心理学は、それぞれが自身の体験に引き付けながら学ぶことにより一層関心を持てる学問であるので、積極的に学ぶ姿勢を持って講義に参加することがのぞましい。授業中の私語や携帯の使用、途中退席等は厳禁。
アクティブ・ラーニング	
ICT・オープンエデュケーションの活用	google classroomを使って事前アンケートや理解度をはかる。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
村木桂子			
ナンバリング：G13C08	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) この授業では文学を単に読解するのではなく芸術として全体を鑑賞する。芸術によって呼び起こされた“未だ知り得ない自分”を感じとり、それを表出することによって「自分にとってかけがえのないものとは何か」をさぐる楽しさを味わう。芸術に触発されてものごとの本質に触れることの奥深さ、喜びを味わい、心ふるえる経験を積み重ねることにより、生涯を通じて形成される教養・価値観・感性などの基盤づくりを目指す。 (授業目標) B：自分の意見を持ち、相手の意見も受け入れながらお互いを尊重し合うことができる。 ○D：授業で得た知識を理解し、興味を持ったことについて主体的に情報を得、学びを深めることができる。 ◎E：自分なりの言葉を用い、授業で得たことについて表現することができる。
授業計画	1 オリエンテーション (ペア・ワーク) 授業内容、授業の進めかた、評価方法に関する説明、文学・絵画・彫刻・音楽それぞれの世界のもつ表現法 (ICT：Google classroom、Google form) 2 芸術と出会うということ (グループディスカッション) 2つで1つのもの考える (ICT：Google classroom、Google form) 3 彫刻：船越保武／神谷美恵子『生きがいについて』 (グループディスカッション) 美しさとは何か、生きがいとは何か (ICT：Google classroom、Google form) 4 神谷美恵子『生きがいについて』② (グループディスカッション) 自分にとっての生きがいとは何か (ICT：Google classroom、Google form) 5 『ベスト』、『十牛図に学ぶ』 (グループディスカッション) 人は自分が予期するかたちで欲しいものを手に入れるとは限らない 6 絵本『てぶくろを買いに』『泣いたあかおに』『おにたのぼうし』 (グループディスカッション) 異文化理解、相互理解 7 中原中也『在りし日の思い出』 詩を鑑賞する、感じる、書く、話し合う 8 東山魁夷という文学 (グループディスカッション) 絵画を鑑賞する、感じる、書く、話し合う (ICT：Google classroom、Google form) 9 岡倉天心と新渡戸稲造 2つの名作を切り口に、現在につながる精神を学ぶ 10 夏目漱石『夢十夜』 (グループディスカッション) 名作を色で味わう (ICT：Google classroom、Google form) 11 伝統文化：和菓子 五感を使う総合芸術 12 伝統文化：歌舞伎 歌と舞踊と演劇によって構成される総合芸術 13 世界と日本の美意識 (1) 絵画や工芸を中心に 14 世界と日本の美意識 (2) 絵と文字の交わり 15 世界と日本の美意識 (3) 今の我々の生活とどうつながっているのか
学習成果・到達目標・基準	B：他者の言葉に耳を傾けながら、自分の意見も人に伝えることができる。 ○D：授業で得た知識を理解し、人に伝えることができる。 ◎E：授業で学び得たことについて味わい感じたことを、表現することができる。
事前・事後学習	事前学習：日ごろから美術、音楽、文学などジャンルを問わずさまざまな芸術と出会う機会を持つ。(60分程度) 事後学習：授業で学んだことからの要点をおさえ、ノートや資料を整理し理解を深める。(60分程度) 授業中に紹介された本や資料を読み、芸術一般についての興味・関心を広げる。(60分程度)
指導方法	すぐれた芸術作品に触れ、演習 (グループディスカッション、ペア・ワーク) を通して自分が感得したものと丁寧に向き合う。毎回200字～400字程度の文章を書きより深く芸術と交わる。正解よりも思考を深めることを

	重視する。パワーポイントを中心に講義をおこない、必要に応じて視聴覚教材も使用する。 フィードバックのしかた：毎時間の提出物にコメントを書いて返却する。 オンライン受講の学生には、教室の授業をZoomでライブ配信する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	B：相手の意見を受け入れつつ、自分の意見も持つ積極的な姿勢を評価する。 D：提出物、試験によって評価する。 E：提出物、試験によって評価する。 定期試験：60%、授業後の提出物：30%、授業参加態度：10%（総合的に評価する）
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考書	授業中に紹介する。
履修上の注意	個人で取り組む課題や意見を交換しながらの演習があるが、いずれも積極的な参加を期待する。授業中の演習参加と課題提出が重要であるため、課題は必ず提出すること。受講者の興味・関心等に応じて授業計画が一部変更される場合がある。
アクティブ・ラー ニング	グループディスカッション、ペア・ワーク
I C T・オープン エデュケーション の活用	Google classroom、Google form、Zoom

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
村木桂子			
ナンバリング：G13C09	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 国語力の四要素（話す・聞く・書く・読む）のトレーニングを総合的に積みあげるにより複眼的思考、論理的思考といった考えかたの基礎力を養う。ペア・ワーク等で課題に取り組むことによりコミュニケーション力を高め社会で活用できる日本語の力を身につける。 (授業目標) ○B：受信した情報について考え、意見をまとめ、根拠を提示しながら発信することができる。 ◎D：授業で学んだ日本語の知識について理解し、使用することができる。
授業計画	<p>1 ガイダンス 言葉をめぐるワーク、授業内容、授業の進めかた、評価方法に関する説明 (ICT：Google classroom、Google form)</p> <p>2 美しく話す（ペア・ワーク） コミュニケーションの基礎、日本語の音声 (ICT：Google classroom、Google form)</p> <p>3 母語の大切さ（ペア・ワーク） 外国語から見た日本語の特徴 (ICT：Google classroom、Google form)</p> <p>4 辞書のいろいろ 似た言葉とその違いについて</p> <p>5 自分流の国語辞典を作る 辞典の特色を学ぶ</p> <p>6 描写のしかた（ペア・ワーク） 根拠ある意見の述べかた (ICT：Google classroom、Google form)</p> <p>7 絵の分析（ペア・ワーク） 論理的文章の書きかた（初級） (ICT：Google classroom、Google form)</p> <p>8 テキスト分析（1）（ペア・ワーク） 論理的文章の書きかた（中級） (ICT：Google classroom、Google form)</p> <p>9 テキスト分析（2）（ペア・ワーク） 論理的文章の書きかた（上級） (ICT：Google classroom、Google form)</p> <p>10 敬語 社会人基礎力を身につけるために（1） (ICT：Google classroom、Google form)</p> <p>11 話し言葉と書き言葉（ペア・ワーク、グループ・ワーク） 社会人基礎能力を身につけるために（2） (ICT：Google classroom、Google form)</p> <p>12 対義語（ペア・ワーク、グループ・ワーク） ことばのニュアンスを感じ取る、注意深く言葉を選ぶ (ICT：Google classroom、Google form)</p> <p>13 文章表現の工夫（ペア・ワーク、グループ・ワーク） 文章の工夫いろいろ (ICT：Google classroom、Google form)</p> <p>14 オノマトペ（ペア・ワーク、グループ・ワーク） 私たちの言語生活を豊かにするために (ICT：Google classroom、Google form)</p> <p>15 日本語の文字（ペア・ワーク、グループ・ワーク） 私たちが使用する文字の由来 (ICT：Google classroom、Google form)</p>
学習成果・到達目標・基準	○B：他者の言葉に耳を傾け、自分の意見を人に伝えることができる。 ◎D：授業で学んだ日本語の知識について理解することができる。
事前・事後学習	事前学習：日ごろからジャンルを問わずさまざまな本（活字）に触れ、多様な言葉の感覚を磨く。（60分程度） 事後学習：授業で学んだ日本語の知識について要点をおさえ、ノートや資料を整理し理解を深める。（60分程度） 授業中に紹介された本や資料を読み、日本語について興味・関心の幅を広げる。（60分程度）

指導方法	ペア・ワークを中心として、正解よりも考えることを重視した授業を行う。テーマごとに口頭演習した内容を文章で再確認することにより、日本語コミュニケーション力を「話す・聞く・書く・読む」の観点から総合的に養う。講義は主にパワーポイントで進め、視聴覚教材も適宜利用する。 フィードバックのしかた：提出物にはコメントを書いて個別指導する。 オンライン受講の学生には、教室の授業をZoomでライブ配信する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	B：ペア・ワークにおける聞く態度や、授業中の積極的な発言、提出物を評価する。 D：試験によって評価する。 定期試験：60%、授業中の課題提出30%、授業参加態度10%（総合的に評価する）
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考書	授業中に紹介する。
履修上の注意	ペア・ワークや個人で取り組む課題があるが、いずれも積極的な参加を期待する。授業中の演習参加と課題提出が重要である。演習に役に立つので、辞書（電子辞書も可）を準備して授業に臨むとよい。
アクティブ・ラーニング	ペア・ワーク、グループ・ワーク
I C T・オープンエデュケーションの活用	Google classroom、Google form、Zoom

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
牧野唯			
ナンバリング：G13C10	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 日本の住まいは気候風土や社会環境と深く結びついているだけではなく、家族やコミュニティに固有の生活論理をもちます。住まいを考えることは、ライフスタイルや個性を活かした暮らし方をコーディネートすることでもあります。住生活の視点から現代の住まいをとりまく諸問題をとりあげ、これからの住まいを創造する力を養います。 (授業目標) 住空間に対する理解をもとに、独自の提案を創造しコーディネートができること ◎C：住まいの現状と諸問題に対して、課題の解決方法を述べることができる ○D：住宅・建築の基礎的な知識・用語の説明ができる
授業計画	<p>1 ガイダンス 授業内容/授業のすすめかた/評価方法/プレゼンテーション ICT：Google Classroomにて予習・復習</p> <p>2 住まいの様式①世界の建築・住宅 気候風土と住まい/環境共生/インテリア様式の変遷 ICT：Google Classroomにて予習・復習</p> <p>3 住まいの様式②日本の住宅史 日本の伝統的建築/多様な住まい/伝統を活かしたインテリア ICT：Google Classroomにて予習・復習</p> <p>4 住まいの様式③現代の住まい モダンデザイン/建築材料/ユニバーサルデザインの今 ICT：Google Classroomにて予習・復習</p> <p>5 住まいの機能①落ち着く場所 居場所の役割/趣味の部屋/寝室のインテリア ICT：Google Classroomにて予習・復習</p> <p>6 住まいの機能②食事・調理の空間 キッチン・台所の歴史/食事と文化/現代のダイニングルーム ICT：Google Classroomにて予習・復習</p> <p>7 住まいの機能③安全・安心のインテリア計画（実習：空間寸法の測定） 防災・減災/家具と収納計画/人間工学/環境心理 ICT：Google Classroomにて予習・復習</p> <p>8 住まいの機能④おもてなしのインテリア 玄関の歴史/座敷の変遷/和洋折衷住宅/暮らしの中の和 ICT：Google Classroomにて予習・復習</p> <p>9 住まいの快適性①光環境と照明（実習：光の測定） 光のコミュニケーション/照明デザイン/窓・装飾 ICT：Google Classroomにて予習・復習</p> <p>10 住まいの快適性②色彩計画 色と文化/カラーコーディネーション/インテリアへの応用 ICT：Google Classroomにて予習・復習</p> <p>11 住まいの快適性③室内環境の調整 熱環境/音環境/換気・通風/持続可能な住まい ICT：Google Classroomにて予習・復習</p> <p>12 住まいのコーディネーション①基礎（実習：簡単な製図） 住宅平面の考え方/単位空間/生活様式/間取りの計画</p> <p>13 住まいのコーディネーション②基礎（実習：人体寸法の測定） 空間における家具・人の位置/パーソナルスペース</p> <p>14 住まいのコーディネーション③応用（プレゼンテーション：カラージュによる作品） 家族の変化/ライフスタイル/若年者・高齢者の住まい</p> <p>15 住まいのコーディネーション④応用（プレゼンテーション：カラージュによる作品） 地域とのつながり/ワーク・ライフバランス/これからの住まい</p>
学習成果・到達目標・基準	◎C：ライフスタイルや個性を反映させた住まいを提案することができる ○D：住居と生活のなりたちについて理解する
事前・事後学習	事前学習：テキストの内容をふまえて参考資料を収集する。本学図書館の参考図書を読む（1時間） 事後学習：Google Classroomによる予習・復習、フィールドワーク、ワークシートの作成（2時間）
指導方法	視覚教材、Google Classroomを用いて授業を進めます。 講義の内容はテキストの予習を前提とし、Google Classroomの課題をもとに、参考資料を収集して積極的に授業へ参加してください。

	<p>また、理解を深め知識を定着するために、Google Classroomに演習問題を提示します。学習状況を把握するため、Google Classroomを活用し自主学習の取り組み状況、進展を確認します。作成したレポートは積極的に提出してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門知識の確認テスト (Google Classroomによる予習・復習) ・室内環境の測定や製図等の作業によるワークシートの作成 ・中間演習 (テーマごとに理解度確かめ、確認テストを行う) ・期末課題 (コラージュの作成) <p>フィードバックの仕方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Google Classroom①課題提出：指摘事項の確認、②ワークシート：返却、指摘事項をもとに修正・再提出
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>C：課題の内容，レポート内容を評価する D：確認テスト，自主学習の進展，定期試験の結果を評価する ワークシート・レポート・期末課題（40%），中間演習（30%），定期試験（30%）により評価する</p>
テキスト	『住まいのデザイン』朝倉書店
参考書	インテリアコーディネーター ハンドブック統合版<上巻・下巻>，インテリア産業協会
履修上の注意	<p>空間を理解するため，寸法をはかったり，図面に描いたりすることを習慣にしましょう。練習を積み重ねれば，誰でも上手に描けるようになります。室内環境の測定や製図等の作業を行いますので，手足を動かしながら学んでください。</p> <p>※定規，カッター，カッターマット，色鉛筆，スチノリを持参</p>
アクティブ・ラーニング	実習，プレゼンテーション
ICT・オープンエデュケーションの活用	Google Classroom

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
高橋佳子			
ナンバリング：G13C11	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 「健康」という大きなテーマの中から、現代社会が及ぼす心身への影響について重点をおきながら、自身の「健康」とは何かを探る授業とする。 健康に関する知識を修得するとともに、グループワークを実施し、他者との意見交換を実施し自身の考えを深める。 (授業目標) ○A：学生間のグループ討議を通して積極的に人と意見交換を実施し、生涯に通ずる「健康」のあり方を自分自身で探ることができる。 ◎D：現代社会が及ぼす心身への影響についての知識を身につけることができる。
授業計画	<p>1 ガイダンス 目的、授業における留意点、成績評価、自分にとっての健康とは何か</p> <p>2 健康の定義（グループワーク：グループごとにまとめを発表） WHOによる健康の定義</p> <p>3 身体と教育 第二次世界大戦前～第二次世界大戦後～現代</p> <p>4 現代社会と健康1 日本の健康問題</p> <p>5 現代社会と健康2（グループワーク：グループごとにまとめを発表） 世界の健康問題</p> <p>6 現代社会におけるストレスと健康のかかわり1 身体の健康とメンタルヘルス</p> <p>7 現代社会におけるストレスと健康のかかわり2 ストレスとストレスコーピング</p> <p>8 人間関係 話す力と聞く力について考える</p> <p>9 発達段階と健康1（グループワーク：グループごとにまとめを発表） 幼児期における運動の意義</p> <p>10 発達段階と健康2 健康と余暇活動を考える</p> <p>11 発達段階と健康3（グループワーク：グループごとにまとめを発表） 高齢者における健康</p> <p>12 ライフスタイルと健康 生体リズムと睡眠</p> <p>13 救急法 障害時の救急、災害時の対応</p> <p>14 女性の健康（グループワーク：グループごとにまとめを発表） 女性の身体について</p> <p>15 健康とは 生涯を通じて自分にとって健康とは何かを考える</p>
学習成果・到達目標・基準	○A：他者の意見を聴き、その上で自身の考えをまとめることができる。 ◎D：現代社会の課題について理解し、自身のライフスタイルと関連づけることができる。
事前・事後学習	事前学習：健康に関するニュースや本に眼を通すように心がけ、配布した記録用紙に記入する。（90分程度） 事後学習：授業で得た知識を一過性のもので終わらせないように、毎授業終了時にGoogleフォームを作成する。また、個人で配布した資料を整理し、実践していくようにこころがける。（90分程度）
指導方法	第1回目は、classroomにてガイダンス実施。 第2回目以降は、ZOOM中継型（対面学生：教室で講義、自宅学生：ZOOMで講義）となる。 講義は基本的にパワーポイントを使用して進める。 適宜、グループワークを取り入れる。 意見交換を積極的に行う中で「健康とは何か」を自覚できるようにする。 フィードバックの仕方：Googleフォーム提出後、評価の上返却する。質問があった場合には、個別に対応する。

アセスメント・成績評価の方法・基準	A：グループ討議での態度、授業への貢献度を評価する。 D：授業終了時のまとめプリント・レポート、定期試験を評価する。 受講態度10%、授業終了時に提出するGoogleフォーム・レポート30%、定期試験60%
テキスト	なし 必要な資料・プリントをその都度配布する。
参考書	「健康管理能力検定3級公式テキスト」 一般財団法人 全国健康管理能力検定協会 監修 「健康管理能力検定2級公式テキスト」 一般財団法人 全国健康管理能力検定協会 監修 「健康・体力・スポーツ 大学生のための保健体育理論」 横浜保健体育理論研究会 編 学術図書出版 「人間関係づくりトレーニング」 星野欣生著 金子書房 「健康・運動の科学 介護と生活習慣病予防のための運動処方」 田口貞善監修 講談社
履修上の注意	自分にとっての健康とは何かを考えながら、積極的な姿勢で授業へ臨むこと。
アクティブ・ラーニング	グループワーク
I C T・オープンエデュケーションの活用	なし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
五十嵐淳子			
ナンバリング：G13C12	B 対面+Classroom併用型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 子どもの発達段階を踏まえ、子どもの育ちを支えるために求められる知識と保育技術、保育・教育内容にかかわることを総合的に学ぶことを目的とする。子どもの遊びと成長について理解し、子ども一人ひとりに寄り添うための必要な知識や教材を紹介するとともに、教材を使用できるための実践的な理解の習得を目指す。 (授業目標) ◎D：子どもの発達の道筋を知り、子どもの成長を育むために必要な知識を修得できる。子どもの発達を学び、子どもに必要な関わりや現代の子育てを取り巻く問題について自分なりの考えをもつことができる。 ○E：保育教材や親子で楽しむおもちゃ、絵本の読み聞かせなどの実践を通して豊かな感性を身に付けることができる。
授業計画	<p>1 オリエンテーション 子どもの成長とは 授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明</p> <p>2 グローバル化と子ども グローバル社会における子どもの理解</p> <p>3 胎児期と母親 子育て支援の事例から 胎児期と母親の子育て支援</p> <p>4 乳幼児期の発達過程と遊び 乳幼児期の発達と子どもの遊びについて</p> <p>5 子どもと言葉 子どもの言葉の発達から見る子どもの英語教育 DVDの映像を通して子どもの発達と言葉について学ぶ</p> <p>6 保育教材について 子どもと一緒に楽しむことができる保育教材の製作</p> <p>7 国際理解と教育・保育 ドイツの事例を通じた国際理解教育と保育</p> <p>8 小学校への入学（グループディスカッション） 就学前の保育から小学校への接続期について扱う。小学校に入学するまでに身につけたい力について概説する、また、小学校に入学する子どもの発達の特徴について、概説する。</p> <p>9 児童期の教材について 小学校の児童を対象とした児童期における教材の製作</p> <p>10 小学校低学年から高学年 小学校低学年から高学年の児童の発達の特徴について DVDの映像を通して児童期の成長について学ぶ</p> <p>11 現代社会を取り巻く子育てと保育 現代の子育てと保育を取り巻く現状と課題 DVDの映像を通して保育ニーズについて学ぶ</p> <p>12 子どもの遊び①：絵本（プレゼンテーション） 絵本の意義について理解を深めるため、各自絵本を1冊持ち寄って、読み聞かせをおこなう。</p> <p>13 子どもの遊び②：保育教材（プレゼンテーション） 製作した保育教材を使用した実践</p> <p>14 多文化理解と子育て支援 多文化理解に視点を置いた地域子育て支援の実際</p> <p>15 子どもの成長と多様な経験の重要性 子どもの成長と多様な経験やパースペクティブな考え方</p>
学習成果・到達目標・基準	◎D：子どもの発達段階を踏まえ、子どもにとって必要な環境や教材について理解することができる。 ○E：子どもの成長にとって必要な教材を使用した実践ができる。
事前・事後学習	事前学習：テキストの該当箇所を読み、保育や子育てに関する新聞やニュース、文献等をまとめておく。（100分） 事後学習：授業時に学習した箇所のテキストや内容を見直し、自分の考えをまとめる。課題が出された場合、課題に取り組む。（100分）
指導方法	テキストとパワーポイント、DVDなどの視聴覚教材を使用する。 フィードバックの方法：発表については個別及びクラス全体に対して講評を行う
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：レポートの記述内容を評価する。 E：製作した教材と実践方法を評価する。

	授業への意欲・態度20%、教材製作と実践発表40%、レポート40%で評価する。
テキスト	五十嵐淳子編著『国際関係の学びーグローバル社会の子どもの未来を見据えてー』大学図書出版、2021年
参考書	授業の際に紹介する
履修上の注意	保育教材の製作では各自必要なものを準備し持参することになります。詳細は授業内で説明します。 絵本の実践演習の課題では、各自絵本を用意してもらいます。絵本は、自分が幼少期に読んでいたものなどを持ってきてください。買う必要はありません。近くの図書館などで借りてきてください。詳細は授業内で説明します。
アクティブ・ラーニング	グループディスカッション、プレゼンテーション
ICT・オープンエデュケーションの活用	スマホ、タブレットPC(双方向型授業に活用)

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
織田陽一			
ナンバリング：G13C13	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業内容) 世界の有名な遺産100件と日本の遺産全23件(2021年4月現在)の中から、テキストとスライド画像を用いて講義を進めていきます。古代遺跡やヨーロッパの建築、大自然の絶景や神話にまつわる地域など、世界旅行をしているような気分を味わいながら、世界遺産検定3級合格のためのポイントをおさえて各回を進めていきます。 (授業目標) 市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得。知的関心をもって学修していく心構え、異なる考え方や異なる文化を持つ人々を理解する能力の養成。 ○C：「地球上の多様な価値観」を理解し、環境保全や国際平和の重要性を認識できる。 ○C：世界の動きに対する関心を高め、批判の目で自分の意見を発表できる。 ◎D：世界遺産検定3級レベル試験で90%以上の得点を取得することができる。
授業計画	1 イントロダクション なぜ世界遺産を学ぶのか 2 世界遺産の基礎知識1 ユネスコと世界遺産条約、世界遺産誕生のきっかけ 3 世界遺産の基礎知識2 登録までの流れ、世界遺産の種類と数、危機遺産と負の遺産 4 日本の世界遺産1 知床、白山山地、平泉、日光の社寺、富岡製糸場と絹産業遺産群、小笠原諸島、ル・コルビジエの建築作品 5 日本の世界遺産2 富士山、白川郷・五箇山の合掌造り集落、古都京都の文化財、古都奈良の文化財、法隆寺地域の仏教建造物群、紀伊山地の霊場と参詣道、姫路城 6 日本の世界遺産3 石見銀山遺跡とその文化的景観、厳島神社、原爆ドーム、明治日本の産業革命遺産、『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群、長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産、屋久島、琉球王国のグスク及び関連遺産群 7 基礎知識と日本の世界遺産の復習 6回目までの総復習 8 世界の文化遺産1 人類誕生とヨーロッパ古代文明、アジア世界の形成と宗教 9 世界の文化遺産2 ヨーロッパ中世、アメリカ、アフリカ、オセアニア 10 世界の文化遺産3 近代国家の成立と世界の近代化 11 世界の文化遺産4 危機遺産、時事問題 12 世界の自然遺産 世界の自然遺産 13 検定直前確認テスト 第44回世界遺産検定に向けた直前の確認テスト 14 グループワークと発表 グループワークと発表 15 グループワークと発表 グループワークと発表
学習成果・到達目標・基準	○C：世界遺産を通して、「地球上の多様な価値観」を理解する。 ○C：世界の動きに対する関心を深め、批判の目と自分の意見を持てるようになる。 ◎D：世界遺産検定3級レベル試験で60%以上の得点を取得することができる。
事前・事後学習	事前学習：講義テーマに対する、教科書の該当箇所を事前に読んでおく。(90分) 事後学習：授業後には当日実施した内容を振り返り、知識を深めること。(90分)
指導方法	指導方法 テキストとスライド画像、講義資料(プリント)を用いて講義を進めていきます。 内容を理解しやすい様に、世界旅行をしているような気分を味わいながら、授業を進めていく。 フィードバックの仕方 リアクションペーパーを返却の際に総括のコメント、また質疑応答にてフィードバックをする。

アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	<p>C：「地球上の多様な価値観」を理解し、環境保全や国際平和の重要性を認識できている事を定期試験で評価する。</p> <p>C：世界の動きに関する自分の意見を発表し、それを評価する。</p> <p>D：検定試験直前確認テストの結果を評価する。</p> <p>定期試験：60% 授業貢献度：20% 検定試験直前確認テスト：20% ※検定合格で成績評価1ランクアップ（例B評価の場合→A評価に）</p>
テキスト	<p>きほんを学ぶ世界遺産100<第3版> 世界遺産検定3級公式テキスト 世界遺産検定公式過去問題集 3・4級 2021年度版</p>
参考書	
履修上の注意	世界遺産検定の申込方法は別途、授業内で案内します。
アクティブ・ラー ニング	グループワーク 発表
I C T・オープン エデュケーション の活用	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
白川はるひ			
ナンバリング：G13C14	B 対面+Classroom併用型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 女性に関するテーマを切り口に日本社会を読み解いていく。そこから立ち現れる現代社会の傾向や課題、それぞれの関連性や原因を理解し、今を生きる当事者である自分がどのように行動していくべきかについて思索する。 (授業目標) 参政権を持つひとりの社会構成員として、社会への問題意識と参画意識をもつ。 ◎C：授業で扱った課題を自分事として捉え、解決策の提示と自らとるべき行動について説明することができる。 授業で扱う課題同士やその他の社会的課題との関連性について考え、論理的に説明することができる。 ○D：授業で扱う諸課題の現状について、データを示しながら適切に説明することができる。
授業計画	1 授業ガイダンス、日本社会の抱える課題を概観する (グループワーク) ・ガイダンス (授業内容、授業方法、評価方法に関する説明、諸注意) ・現代日本社会でみられる女性をめぐる課題をひとつを取り出し、現代の特質を考える 2 「女性らしさ」とは (グループワーク) (ロールプレイ) ・「女性らしさ」とは何か ・メディアと女性 3 人口減少社会と女性 (グループワーク) ・人口減少の現状 ・人口減少社会のなかでの女性の生き方 4 女性と仕事1 (課題文読み込み あるいは 発表とディスカッション) 【教室受講】 課題女性の雇用の現状について発表・ディスカッション 【自宅受講】 課題文の理解と資料調べ 5 女性と仕事2 (課題文読み込み あるいは 発表とディスカッション) 【教室受講】 課題女性の雇用の現状について発表・ディスカッション 【自宅受講】 課題文の理解と資料調べ 6 女性と育児1 【教室受講】 育児をめぐる諸課題について発表・ディスカッション 【自宅受講】 課題文の理解と資料調べ 7 女性と育児2 【教室受講】 育児をめぐる諸課題について発表・ディスカッション 【自宅受講】 課題文の理解と資料調べ 8 女性と貧困1 【教室受講】 女性の貧困問題について発表・ディスカッション 【自宅受講】 課題文の理解と資料調べ 9 女性と貧困2 【教室受講】 女性の貧困問題について発表・ディスカッション 【自宅受講】 課題文の理解と資料調べ 10 女性と教育1 【教室受講】 女性と学びについて発表・ディスカッション 【自宅受講】 課題文の理解と資料調べ 11 女性と教育2 【教室受講】 女性と学びについて発表・ディスカッション 【自宅受講】 課題文の理解と資料調べ 12 女性と政治1 【教室受講】 女性と政治の関わり関して発表・ディスカッション 【自宅受講】 課題文の理解と資料調べ 13 女性と政治2 【教室受講】 女性と政治の関わり関して発表・ディスカッション 【自宅受講】 課題文の理解と資料調べ 14 より良い社会を目指して1 日本社会でみられる女性問題を切り口に、現代社会の課題について考察する 【教室受講】 課題と解決策の提示 (プレゼンテーション) 【自宅受講】 課題と解決策の提示 (資料作成) 15 より良い社会を目指して2 日本社会でみられる女性問題を切り口に、現代社会の課題について考察する 【教室受講】 課題と解決策の提示 (プレゼンテーション) 【自宅受講】 課題と解決策の提示 (資料作成)
学習成果・到達目標・基準	◎C：授業で扱った現代社会の課題についての具体的解決策の事例を調べ説明することができる。 授業で扱う課題同士の関連性を自分の言葉で説明することができる。 ○D：授業で扱う諸課題の現状について概要を説明することができる。

事前・事後学習	<p>事前学習：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日のニュースチェック (30分) ・予習ワークシートに取り組む (90分) <p>事後学習：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Googleフォームでの事後課題に取り組む (30分) ・他の履修学生の意見をまとめたプリントを読み、授業内容に関する理解や自分の考えをさらにを深める (60分)
指導方法	<p>授業は主に一つのテーマにつき次の流れで学ぶ。①課題文の読み込み ②資料調べ ③ワークシート作成 ④発表とディスカッション ⑤補足説明 ⑥意見のまとめとシェア。</p> <p>テーマごとに担当者を決め、その担当者によるディスカッションを中心としながらクラス全体で意見交換をし学びを深める。それらの学びのなかから各自テーマをひとつ決め、プレゼンテーションにて自らの意見をまとめる。</p> <p>フィードバックの方法：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディスカッションについては学生同士の相互フィードバックおよび教員からのコメントにて行う。 ・提出物については、クラス全体に対して教室あるいはGoogle Classroom上にて行う。 必要に応じて個々にコメントする。 ・Web上での確認テストは、受験後に正解を提示する。 ・必要に応じてルーブリックを活用しながらフィードバックを行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>C：提出物、最終課題、授業貢献度にて評価する。</p> <p>D：提出物、最終課題、授業貢献度、定期試験にて評価する。</p> <p>提出物 50%、 最終課題（プレゼンテーション） 10%、 授業貢献度（発言内容、参加度） 10%、 定期試験 30%</p>
テキスト	なし。適宜プリント教材を配布する。
参考書	<p>松田健『テキスト現代社会学 第3版』ミネルヴァ書房, 2016</p> <p>岩間暁子ほか『問いからはじめる家族社会学 多様化する家族の包摂に向けて』有斐閣ストゥディア, 2015</p> <p>加藤秀一『はじめてのジェンダー論』有斐閣ストゥディア, 2017</p> <p>小杉礼子・宮本みち子 編著 『下層化する女性たち 労働と家庭からの排除と貧困』勁草書房, 2015 他</p>
履修上の注意	<p>時事問題が得意でないが理解を深めたいと考えている学生、ディスカッションは得意でないがその力を伸ばしたいと考えている学生の参加も歓迎する。理解を深めること、ディスカッションスキルを伸ばすこと、その両方を目標に履修して欲しい。</p> <p>テーマごとの課題に充分取り組んでこそそのディスカッションとなるため、それを心得て履修すること。</p>
アクティブ・ラーニング	グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション、ロールプレイ
ICT・オープンエデュケーションの活用	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
井上近子			
ナンバリング：G13C15	B 対面+Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 近年、小売業を取り巻く環境は厳しい状況にあり、小売業者による生活者ニーズに合った店づくり、商品の品揃えなど満足へのいく対応が求められている。本講義は、流通における小売業の基本的役割を理解し、流通経路の重要性や店舗形態別小売業の特徴を解明していく。さらに、中小小売業の現状と役割、商業集積の変遷や課題についても取り上げる。2月に実施される「リテールマーケティング（販売士）検定3級」受験に対応し、授業の中で傾向と対策の時間を設けている。 (授業目標) 流通業界の第一線で活躍できる人材として「リテールマーケティング（販売士）検定3級」程度の知識を修得する。 ◎D：製造業、卸売業、小売業の基本的役割および流通のしくみを理解し、店舗形態別小売業の現状と課題を述べることができる。
授業計画	1 流通とは何か（ZOOM） 流通のしくみ、小売業および卸売業の機能と役割について 2 日本における小売業の特徴（対面、Classroom） 小売業を取り巻く社会環境の変化、零細性、過多性、多段階性について 3 日本における小売業の特徴（対面、Classroom） 小売業を取り巻く社会環境の変化、零細性、過多性、多段階性について 4 衣料品の販売形態（対面、Classroom） 百貨店の歴史と売上高低迷の要因、自主マーチャンダイジングの取り組みについて 5 衣装品の販売形態（対面、Classroom） 百貨店の歴史と売上高低迷の要因、自主マーチャンダイジングの取り組みについて 6 食料品の販売形態（対面、Classroom） 総合品ぞろえスーパーとスーパーマーケットの店舗形態について 7 食料品の販売形態（対面、Classroom） 総合品ぞろえスーパーとスーパーマーケットの店舗形態について 8 医薬品、化粧品、日用品の販売形態（対面、Classroom） ドラッグストア、コンビニエンスストアの品ぞろえ特性について 9 医薬品、化粧品、日用品の販売形態（対面、Classroom） ドラッグストア、コンビニエンスストアの品ぞろえ特性について 10 無店舗販売の特徴（対面、Classroom） 訪問販売、移動販売、通信販売の特徴、O2O、オムニチャネル、OMOの変遷について 11 無店舗販売の特徴（対面、Classroom） 訪問販売、移動販売、通信販売の特徴、O2O、オムニチャネル、OMOの変遷について 12 チェーンストアの種類と特徴（対面、Classroom） レギュラーチェーン、フランチャイズチェーン、ボランタリーチェーンの違いについて 13 チェーンストアの種類と特徴（対面、Classroom） レギュラーチェーン、フランチャイズチェーン、ボランタリーチェーンの違いについて 14 商業集積の特徴（対面、Classroom） ショッピングセンターの種類、商店街の課題について 15 商業集積の特徴（対面、Classroom） ショッピングセンターの種類、商店街の課題について
学習成果・到達目標・基準	◎D：小売業に関する流通チャネルや業種・業態の特徴について説明できる。
事前・事後学習	事前学習：新聞記事や経済誌、テレビ等で新規出店やリニューアル、新業態に関するニュースを確認する（60分程度）。分からない専門用語を調べてまとめておく（60分程度）。 事後学習：興味のある記事・ニュースを1つ取り上げて、要約する（60分程度）。
指導方法	プリント、パワーポイント、DVDを基本とした講義形式で行う。板書が多くなるため、素早く書き取ることを心がけることが大切である。 フィードバックの方法：①小テスト実施、②小テスト実施後における質疑応答
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：定期試験、理解力の確認および検定試験対策のため実施する授業内小テスト、受講態度および授業への貢献度を評価する。 定期試験60%、授業内で実施する小テスト課題20%、受講態度・貢献度20%
テキスト	「販売士養成講習会3級テキストⅠ」日本商工会議所・全国商工会連合会編

参考書	「流通論」 著者：村松幸廣・井上崇道・村松潤一 出版者：同文館 「流通の基本知識」 著者：宝子山嘉一・松原寿一 出版者：評言社
履修上の注意	服飾芸術科の学生で「リテールマーケティング（販売士）検定3級」の資格取得を目指す場合は、本科目と「商品企画」「販売と経営」の3科目すべてを同学期に履修し、以下の条件を満たすことで、検定試験5科目のうち1科目が受験免除される。①第1回の授業に出席すること（本学で受験免除希望者名簿を作成するため）。②11月末に学内で実施する予備試験までの出席率が80%以上であること。③予備試験は70点以上であること。
アクティブ・ラーニング	特になし
I C T・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
苗村晶彦			
ナンバリング：G13C16	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 宇宙や地球レベルの話から個々の生活レベルの話まで範囲は広がるが、一つひとつは物質と生命との相互作用で繋がっていることを理解する。また、地球の自然が作られた歴史や物質や生命の歴史を辿り、人間活動との関わりの理解を深める。更に、データサイエンスや、心の問題にも焦点を充て、グローバルかつローカルな環境と人間に係わる問題を考える。 (授業目標) ◎C：環境の知識を活用し、環境問題の本質を理解することができる。 ○D：環境問題を地理や歴史と体系立てて理解することができる。
授業計画	<p>1 生きている地球 地球上の季節の変化や、生命の営みについて理解する。</p> <p>2 アリストテレスの四元素と暦 星座や、二十四節気について理解する。</p> <p>3 星と太陽系の惑星 星や太陽系の惑星の知識を修得し、かけがえのない地球を考える。(グループ発表)</p> <p>4 地球の歴史 地球46億年の歴史を辿る。</p> <p>5 酸素とオゾン 生活環境で絶対に必要な酸素について考え、オゾンの知識を習得する。(グループ発表)</p> <p>6 水 身近な水について考える。</p> <p>7 データサイエンスの演習 ビッグデータを用いて、データ解析の楽しさを学ぶ。(グループ発表)</p> <p>8 心のエネルギーの活性 心の問題を、古典から解き明かし学ぶ。</p> <p>9 日本の世界遺産 日本の誇るべき世界遺産について学ぶ。(グループ発表)</p> <p>10 地球温暖化について 化石燃料とエネルギー問題、地球温暖化による生態系への影響を理解する。</p> <p>11 芝公園の環境について調べる(フィールドワーク) 芝公園に出かけ、環境について考える。</p> <p>12 世界や日本の河川と身近な河川 世界や日本の河川について学び、川の水質について調べる。</p> <p>13 人間の歴史と公益(ゲスト講師) ゲスト講師が、人間の歴史と公益の観点から講義を行う。</p> <p>14 生物の寿命とメス・オス ヒトや他の生命の寿命を考え、メスとオスの役割を認識する。</p> <p>15 地球レベルと個々の生活(グループ発表) Think globally, act locally.</p>
学習成果・到達目標・基準	◎C：身のまわりの環境を理解することができる。 ○D：身近な環境問題について考えることができる。
事前・事後学習	事前学習；プリントを読み関連のある箇所を読む(90分程度) 事後学習；配布されたプリントを復習し、演習問題を再度解く(90分程度)
指導方法	配布するプリントや、パワーポイント等を使用して講義を進める。 また、科学等のテーマでグループ発表を行う。 フィードバックの仕方：プリント返却時に指導する。 オンライン受講の学生には、教室の授業をZoomでライブ配信する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：環境の問題について定期試験で評価する D：環境について定期試験で評価する 定期試験80%、受講態度20%
テキスト	毎回プリントを配布する。

参考書	『地球環境化学入門・改訂版』J.E. アンドリュース著、渡辺正翻訳(丸善出版)
履修上の注意	記入式のプリントを配布する。 講義を欠席する場合、理由を明記して欠席届の提出を行う。
アクティブ・ラーニング	グループ発表がある。また、フィールドワークがある。
ICT・オープンエデュケーションの活用	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	総合：選択
担当教員			
苗村晶彦			
ナンバリング：G13C17	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 物質の構成や結合を理解し、化学の基本となる物質量の考え方を身につける。化学反応式を理解し、中和反応や酸化還元反応を学ぶ。また、有機化学は炭素を中心とした独特の世界が広がっており、生命現象の根本となる有機化学をわかりやすく説明していく。高校で理論化学や有機化学を履修しなかった場合にも対応できるように行っていく。演習も重要視する。 (授業目標) ◎C：化学の知識を使って、ミクロな物質の仕組みを理解する。 ○D：モルを理解し、有機化学を系統立てて理解する。
授業計画	<p>1 周期表 化学に親しむために、周期表に関することを学ぶ。(個人の発表)</p> <p>2 物質と原子：物質の成分、構成要素 純物質と混合物、原子や分子、原子内の電子配置を学ぶ。</p> <p>3 価電子、原子量・分子量 最外殻電子や、原子量について学ぶ。</p> <p>4 化学結合 イオン結合や共有結合について学ぶ。</p> <p>5 物質の三態 物質の状態変化について学ぶ。</p> <p>6 物質量 モルについて学び、演習を通し理解を深める。</p> <p>7 化学反応と化学反応式 化学反応式について理解する。</p> <p>8 酸・塩基、中和 酸と塩基の強弱や、中和反応を理解する。</p> <p>9 酸化還元反応 酸化数や還元数について理解し、酸化・還元剤の知識を修得する。</p> <p>10 炭素の結合について 有機化学の根本となる炭素の性質について理解する。</p> <p>11 官能基と異性体 主要な官能基を覚え、異性体を理解し演習を行う。</p> <p>12 脂肪族炭化水素、アルコール 二重結合や三重結合の知識を修得し、アルコール類の種類や性質を学ぶ。</p> <p>13 糖質の化学 三大栄養素の1つである糖質を学ぶ。</p> <p>14 脂質の化学 三大栄養素の1つである脂質を学ぶ。</p> <p>15 タンパク質の化学 三大栄養素の1つであるタンパク質を学ぶ。</p>
学習成果・到達目標・基準	◎C：化学の知識を使って計算問題を解くことができる。 ○D：化学の単位を理解し、炭素の性質等を考えることができる。
事前・事後学習	事前学習：テキストや参考書を読み関連のある箇所について学ぶ(90分程度) 事後学習：テキストや配布されたプリントを復習する(90分程度)
指導方法	テキストに従って授業を進める。また、随時プリントを配布し、パワーポイント等を使用して講義を進める。 フィードバックの仕方：数回小レポートにて理解度を確認し、返却時に指導する。 オンライン受講の学生には、教室の授業をZoomでライブ配信する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：化学の知識や計算問題について定期試験で評価する。 D：モルや有機化学等を定期試験で評価する。 定期試験80%、受講態度20%
テキスト	『視覚でとらえるフォトサイエンス化学図録』数研出版編集部編(数研出版)
参考書	

履修上の注意	授業を欠席する場合、理由を明記して欠席届の提出を行うようにする。
アクティブ・ラーニング	個人の発表がある。
ICT・オープンエデュケーションの活用	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	総合：選択
担当教員			
苗村晶彦			
ナンバリング：G13C18	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 細胞・生殖・遺伝現象や、生物の成り立ちと種族維持の仕組みについて理解し、生命の連続性の見方や考え方を身につける。ヒトの体を知ることは生物学の本質であるが、その不思議なメカニズムや働きを知り、生命の大切さや尊厳について学ぶ。また、生物の進化や今地球上でどのような問題が起こっているのかについても焦点を充てる。 (授業目標) ◎C：生物学の知識を使って、生命の本質や地球環境問題への思考力を身につける。 ○D：生物学の知識を理解し、生物学を系統立てて理解する。
授業計画	1 植物と動物 さまざまな生き物の特性を学ぶ。(発表) 2 ゴリラの生活と生態 ヒトとほとんどDNAに近いゴリラについて考える。 3 生命の起源と進化と古細菌 生命の起源や、進化の過程を理解する。 また、生命の故郷・海について考える。(グループ発表) 4 細胞 ミクロの世界の現象を考える。 5 生殖と遺伝 さまざまな生殖の特色を学ぶ。メンデルの法則や、遺伝について学ぶ。(グループ発表) 6 芝公園における植物観察(フィールドワーク) 校外実習(植物観察を行いレポートを提出する) 7 ヒトの体 ヒトの体の絶妙な仕組みについて学ぶ。(グループ発表) 8 五感(目・耳・舌・鼻・皮膚) 五感の働きについて理解する。 9 酸素と呼吸(有機物の分解) 嫌気呼吸と好気呼吸の仕組みについて理解する。(グループ発表) 10 光合成(有機物の生成) 有機物の生成について理解する。 11 血液とホルモン 体内環境と体液について学ぶ。(グループ発表) 12 脳(神経の働き) 刺激と受容や、神経系について学ぶ。 13 DNA DNAの構造や、DNAの複製を理解する。(グループ発表) 14 地球環境問題1 ヒトの寿命や、森林衰退について考える。 15 地球環境問題2 地球温暖化について考える。(グループ発表)
学習成果・到達目標・基準	◎C：生物学の知識を使って、生命の本質や地球環境問題について考え実践することができる。 ○D：生物学の知識を理解し、生物学を系統立てて考えることができる。
事前・事後学習	事前学習：テキストを読み関連のある箇所を読む(90分程度) 事後学習：テキストや配布されたプリントを復習する(90分程度)
指導方法	テキストやプリントに従って授業を進める。また、パワーポイント等を使用して講義を進める。 フィードバックの仕方：数回小レポートにて理解度を確認し、返却時に指導する。 オンライン受講の学生には、教室の授業をZoomでライブ配信する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：生物の知識を使って、生命の本質の理解について定期試験で評価する。 D：生物学を系統立てて考えられるかを定期試験で評価する。 定期試験80%、受講態度20%
テキスト	『視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録』数研出版編集部編(数研出版)

参考書	
履修上の注意	授業を欠席する場合、理由を明記して欠席届の提出を行うようにする。
アクティブ・ラーニング	個人の発表や、グループ発表がある。また、フィールドワークがある。
ICT・オープンエデュケーションの活用	

講義科目名称： 情報リテラシー

授業コード： 4231 4232 4233 4234
4235 4236 4237 4238
4239 4240 他3件

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	総合：必修
担当教員			
別宮玲、押切孝雄、福田博志、小山洋行、布施梓、小倉秀雄			
ナンバリング：G14A19	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 現代社会においては、あらゆる職業においてPCとネットの活用が求められていると言っても過言ではない。本授業ではメール、インターネット、キーボードタイピング、ワープロ、表計算といった一般的に社会人に必要とされている技術を初歩から学ぶ。 文書作成・表計算・プレゼンテーションソフトの基本操作だけではなく、昨今多発しているコンピューター犯罪や炎上事件などのインターネットに関するトラブルから身を守る為の術を身につけることも本授業の目的である。 (授業目標) ○D：社会におけるコンピューターやネットワークに関する諸問題を理解し、その回避方法・解決方法を説明できる。 ◎E：PCを使用して自分の考えをまとめ、適切なアプリケーションを使用しドキュメント化することができる。
授業計画	<p>1 ガイダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本授業概要と他の科目との関係について ・情報資格解説 ・情報セキュリティ動画視聴「あなたのパスワード大丈夫？」 <p>2 本学の情報システム：学生用情報システムの設定確認と基本操作を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生用PC、Gメール、アクティブポータル、WebClass等の設定と操作 ・情報セキュリティ動画視聴「あなたの書き込みは世界中でみられている」 <p>3 PC基本操作：OS操作を中心にPCの基本操作と用語を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アプリの起動とファイル(メモ帳、ペイント、Word、Excel、PowerPoint)の新規作成 ・エクスプローラーによるファイル操作とフォルダ管理 ・キーボードタイピング ・PC、タブレット、スマホなど情報機器の用途や用語の学習 ・情報セキュリティ動画視聴「スマートフォン乗っ取り(デモ)」 <p>4 文書作成ソフトの学習(1)：Wordの基本操作を学ぶ(Google Classroom:課題提出とフィードバック)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規作成 ・配置の設定 ・フォントの設定 ・段落番号と箇条書き ・文字数と行のカウント ・保存 ・情報セキュリティ動画視聴「その警告メッセージ、信じて大丈夫」 <p>5 文書作成ソフトの学習(2)：Wordの基本操作を学ぶ(Google Classroom:課題提出とフィードバック)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・画像の挿入 ・SmartArtグラフィック ・表の作成 ・他のアプリのオブジェクトを貼り付ける ・情報セキュリティ動画視聴「乗っ取りの危険性があなたのスマホに」 <p>6 文書作成ソフトの学習(3)：Wordの基本操作を学ぶ(Google Classroom:課題提出とフィードバック)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図表番号の設定 ・ページ罫線 ・ワードアート ・段組み ・タブとリーダー ・PDFファイルとして保存 ・Word演習問題 ・情報セキュリティ動画視聴「ネットの危ない罠、出会い系サイト」 <p>7 表計算ソフトの学習(1)：Excelの基本操作を学ぶ(Google Classroom:課題提出とフィードバック)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規作成 ・データの入力 ・保存 ・罫線の設定 ・数式の入力 ・関数の入力 ・情報セキュリティ動画視聴「ネットの危ない罠、ネットショッピング」 <p>8 表計算ソフトの学習(2)：Excelの基本操作を学ぶ(Google Classroom:課題提出とフィードバック)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表示形式の設定 ・列幅の変更

	<ul style="list-style-type: none"> ・書式のコピー ・情報セキュリティ動画視聴「ネットの危ない罠、SNS」
9	表計算ソフトの学習（3）：Excelの基本操作を学ぶ（Google Classroom:課題提出とフィードバック）
10	<ul style="list-style-type: none"> ・Excelによる情報分析 ・グラフの活用 ・Excel演習問題 ・情報セキュリティ動画視聴「大丈夫、あなたのスマートフォン」
11	<p>プレゼンテーションソフトの学習（1）：PowerPointの基本操作を学ぶ（Google Classroom:課題提出とフィードバック）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規作成 ・テーマの適用 ・プレースホルダー ・箇条書きテキスト ・スライドの実行 ・情報セキュリティ動画視聴「ネットの危ない罠、ワンクリック詐欺」
12	<p>プレゼンテーションソフトの学習（2）：PowerPointの基本操作を学ぶ（Google Classroom:課題提出とフィードバック）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オブジェクトの挿入 ・スライドの構成の変更 ・画面切り替え効果の設定 ・アニメーションの設定 ・情報セキュリティ動画視聴「あなたのスマートフォン、ウィルスが狙っている」
13	<p>プレゼンテーションソフトの学習（3）：PowerPointの基本操作を学ぶ（Google Classroom:課題提出とフィードバック）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの流れ ・PowerPoint演習問題 ・情報セキュリティ動画視聴「スマートフォンのワンクリック請求」
14	<p>総合演習（1）（Google Classroom:課題提出とフィードバック）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマを決め各自プレゼンテーションスライドを作成 ・情報セキュリティ動画視聴「デモで知る標的型攻撃による乗っ取り」
15	<p>総合演習（2）（Google Classroom:課題提出とフィードバック）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマを決め各自プレゼンテーションスライドを作成 ・情報セキュリティ動画視聴「陽だまり家族とパスワード」
15	<p>総合演習（3）（プレゼンテーション：受講者全員がプレゼンテーションを行う）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自がテーマに沿って作成したスライドを用いたプレゼンテーション
学習成果・到達目標・基準	<p>○D：コンピューター犯罪や炎上事件などのネットに関するトラブルの例を説明できる。</p> <p>◎E：Word、Excel、PowerPointを用いた基本的な文書や表計算の作成、プレゼンテーションの作成や操作ができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：シラバスを参考に、次回使用するアプリケーションについて各自学習する。特に新しいアプリケーションを使用する回の前には、自宅のPCで該当するアプリケーションが正しく起動するかを必ず確かめる。（20分）</p> <p>日々のニュース、特にネットワークやセキュリティに関する情報をチェックする。（20分）</p> <p>事後学習：課題演習の多い授業である。苦手なアプリケーションの操作は次週までに克服するよう各自学習する。（20分）</p>
指導方法	<p>パソコンを操作する演習が中心だが、必要に応じて講義を中心とした回も織り交ぜて進める。</p> <p>文書作成はMS-Word、表計算はMS-Excel、プレゼンテーションはMS-PowerPointによる制作作業を行う。</p> <p>課題の提出はGoogle Classroomを利用する。課題の採点結果や再提出の指示などのフィードバックもGoogle Classroomで行う。また、Google Classroomの利用方法についても本授業内で学習する。</p> <p>毎週の授業内容に加え、セキュリティに関する講義（オープンエデュケーション利用）とタイピング練習も随時行われる。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>D：授業内での質問と回答、小テストで評価する。</p> <p>E：Word、Excel、PowerPointによる制作課題を評価する。</p> <p>受講態度30%、課題提出40%、最終課題30%</p>
テキスト	情報リテラシー 入門編 Windows 10 / Office 2019対応（FOM出版）
参考書	
履修上の注意	2週にわたって取り組む演習問題が複数存在する。1回でも欠席すると、その後ついていくのが大変なため、休んだ回の課題は教員に確認し、次回出席までに終わらせておくこと。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション
ICT・オープンエデュケーションの活用	<p>Zoom, Google Classroom</p> <p>また情報セキュリティに関する教材については、オープンな教育リソースである以下2サイトの教育コンテンツを使用する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報処理推進機構「映像で知る情報セキュリティ」 ・神奈川県公式サイト「かなちゃんTV 動画で見る神奈川（消費者向けチャンネル）」

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
福田博志、小倉秀雄			
ナンバリング：G14C20	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) PCを用いた文書作成スキルはあらゆる職業で必要されるといっても過言ではないだろう。また学生生活においてレポート課題など文書作成を求められる場面も非常に多い。本授業ではMicrosoft Office Specialist (MOS) 検定の「Microsoft Office Word 365&2019」の出題範囲にそって文書作成のためのアプリケーションであるWordの機能を学習する。また、試験に合格するコツや、テクニックなどについても学習する。 (授業目標) ◎E：文書の作成と管理について、MOS Word 合格相当のPCの操作ができる。 ◎E：文書内に書式やページレイアウトを設定し、表、グラフィックや参考資料を挿入し管理する方法について、MOS Word 合格相当のPCの操作ができる。 ◎E：文書の作成・管理に関する共同作業について、MOS Word 合格相当のPCの操作ができる。
授業計画	<p>1 ガイダンス 授業目標および授業内容の説明 成績評価方法の説明 MOSの概要説明 演習環境に関する説明</p> <p>2 文書の管理（1）：（実習：PCによる演習） 文書内を移動する 文書の書式を設定する</p> <p>3 文書の管理（2）：（実習：PCによる演習） 文書を保存する、共有する 文書を検査する</p> <p>4 文字、段落、セクションの挿入と書式設定：（実習：PCによる演習） 文書の管理：確認問題 文字列や段落を挿入する 文字列や段落の書式を設定する 文書にセクションを作成する、設定する</p> <p>5 表やリストの管理（1）：（実習：PCによる演習） 文字、段落、セクションの挿入と書式設定：確認問題 表を作成する 表を変更する</p> <p>6 表やリストの管理（2）&参考資料の作成と管理（1）：（実習：PCによる演習） リストを作成する、変更する 表やリストの管理：確認問題 参照のための要素を作成する、管理する（1）</p> <p>7 参考資料の作成と管理（2）&グラフィック要素の挿入と書式設定（1）：（実習：PCによる演習） 参照のための要素を作成する、管理する（2） 参照のための一覧を作成する、管理する 参考資料の作成と管理：確認問題 図やテキストボックスを挿入する（1）</p> <p>8 グラフィック要素の挿入と書式設定（2）：（実習：PCによる演習） 図やテキストボックスを挿入する（2） 図やテキストボックスを書式設定する（1）</p> <p>9 グラフィック要素の挿入と書式設定（2）：（実習：PCによる演習） 図やテキストボックスを書式設定する（2） グラフィック要素にテキストを追加する グラフィック要素を変更する グラフィック要素の挿入と書式設定：確認問題</p> <p>10 文書の共同作業の管理：（実習：PCによる演習） コメントを追加する、管理する 変更履歴を管理する 文書の共同作業の管理：確認問題</p> <p>11 第1回試験対策講座：（実習：PCによる演習） MOS 365&2019の試験形式、画面構成と試験環境の説明 MOS 365&2019攻略ポイントおよび模擬試験プログラムの使い方 第1回模擬試験を実施し、試験結果の課題に対し個別に対策を行う</p> <p>12 第2回試験対策講座：（実習：PCによる演習） 第2回模擬試験を実施し、試験結果の課題に対し個別に対策を行う</p> <p>13 第3回試験対策講座：（実習：PCによる演習） 第3回模擬試験を実施し、試験結果の課題に対し個別に対策を行う</p>

	14	第4回試験対策講座：(実習：PCによる演習) ランダム模擬試験を実施し、試験結果の課題に対し個別に対策を行う
	15	第5回試験対策講座：(実習：PCによる演習) ランダム模擬試験を実施し、試験結果の課題に対し個別に対策を行う
学習成果・到達目標・基準		◎E：基本的な文書の作成および管理ができる。 ◎E：文書内に書式やページレイアウトを設定し、表、グラフィックや参考資料を挿入するための基本的な操作ができる。 ◎E：文書の作成・管理に関し、共同作業ができる。
事前・事後学習		事前学習：MOSランダム模擬試験は、出題範囲が事前に明確になっているため、十分な事前学習による高得点の獲得を期待する。(200分) 事後学習：各講義内容で十分に理解できなかった操作については、事後学習で各自補完すること。また、各出題範囲の終了後に出题される課題を解答することで、操作方法を確実に習得すること。(120分)
指導方法		パソコンを操作する実習(講師が、まず、テキストに沿って操作内容を解説・実演し、受講者は関連する演習問題を各自のPCで演習を行う形式)が中心である。 各出題範囲の終了後に、知識の習得を確実にする目的で、課題を出題し、解答の提出をしてもらう。 また授業終盤ではMOSの模擬試験による実践演習を行い、試験結果の課題に対し、個別で取り組み、質疑応答を行う。 フィードバックの仕方：授業後、直接個別対応する。
アセスメント・成績評価の方法・基準		E：PCを利用したMOSの模擬試験で文書の作成および管理に関する操作の評価を行う。 E：PCを利用したMOSの模擬試験で書式、ページレイアウトの設定、表、グラフィック、参考資料の挿入に関する操作の評価を行う。 E：PCを利用したMOSの模擬試験で文書の作成・管理に関し共同作業に関する操作の評価を行う。 また、各課題への提出およびその採点結果を総合して成績評価を行う。 尚、採点の割合は、課題提出：30%、課題点：70%とする。 MOS Word 365&2019の合格認定により、成績評価を1ランクアップする。 (本来A評価の者をS評価に、B評価の者はA評価にアップ。元々S評価の者はそのままS評価の成績となる)
テキスト		よくわかるマスターMicrosoft Office Specialist Microsoft Word 365&2019 対策テキスト&問題集 FOM出版
参考書		
履修上の注意		対面授業とオンライン授業を併用するため、オンライン授業受講に際し、受講者は授業に使用する、次の条件を満たすPCを用意する必要がある。 1. PCのOSはWindows 10 日本語版 (Windows 10 Sモードでは動作しない) 2. 演習で使用する Microsoft Office Word と同一バージョンのアプリ (Microsoft Word 365または2019) が各自のPC上にインストールされている必要がある。 また、授業に際し、テキストは必携である。 「情報リテラシー」履修済みか、同等以上のコンピュータ操作技能があることが履修の前提となる。 他のMOS資格 (Excel、PowerPoint) の受験も視野に、計画的な学習をすること。
アクティブ・ラーニング		実習
ICT・オープンエデュケーションの活用		デジタル教材による模擬試験

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
井上香緒里、小倉秀雄			
ナンバリング：G14C21	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) プレゼンテーションソフトは事務職のみならず様々な職業で使用する機会がある。 本授業ではMicrosoft Office Specialist (MOS) 検定の「MOS PowerPoint 365&2019」の出題範囲にそってプレゼンテーションソフトPowerPointの機能を勉強する。 また、MOS試験に合格するコツや、テクニックなどについても学習する。 (授業目標) ◎E：スライドの作成・操作、グラフィックやマルチメディアの挿入、グラフや表の作成、アニメーション設定について、MOS PowerPoint 合格相当のPCの操作ができる。MOS試験に挑戦して合格する。
授業計画	1 ガイダンス/プレゼンテーションの管理 (1) ・ 授業の目的と進め方の説明 ・ MOS試験制度とMOS PowerPoint 365&2019の出題範囲の説明 1-1-1 スライドのサイズを変更する 1-1-2 プレゼンテーションの表示を変更する 1-1-3 ファイルの基本的なプロパティを設定する 1-2-1 プレゼンテーションの全体または一部を印刷する 1-2-2 配布資料を印刷する 1-2-3 ノートを印刷する 1-2-4 カラー、グレースケール、白黒で印刷する 2 プレゼンテーションの管理 (2) 1-3-1 目的別スライドショーを作成する 1-3-2 スライドショーのリハーサル機能を使用する 1-3-3 スライドショーのオプションを設定する 1-3-4 スライドショーの記録のオプションを設定する 1-3-5 発表者ツールを使用してスライドショーを発表する 3 プレゼンテーションの管理 (3) 1-4-1 スライドのレイアウトを変更する 1-4-2 スライドマスターのテーマや背景を変更する 1-4-3 スライドのレイアウトを作成する 1-4-4 スライドマスターのコンテンツを変更する 1-4-5 配布資料マスターを変更する 1-4-6 ノートマスターを変更する 4 プレゼンテーションの管理 (4) 1-5-1 コメントを追加する、管理する 1-5-2 プレゼンテーションの内容を保持する 1-5-3 プレゼンテーションを検査する 1-5-4 編集を制限する 1-5-5 パスワードを使用してプレゼンテーションを保護する 1-5-6 プレゼンテーションを別の形にエクスポートする 5 スライドの管理 (1) 2-1-1 スライドを挿入し、スライドのレイアウトを選択する 2-1-2 スライドを複製する 2-1-3 ほかのプレゼンテーションからスライドを挿入する 2-1-4 Wordのアウトラインをインポートする 2-1-5 サマリーズームのスライドを挿入する 6 スライドの管理 (2) 2-2-1 スライドを表示する、非表示にする 2-2-2 個々のスライドの背景を変更する 2-2-3 スライドのヘッダー、フッター、ページ番号を挿入する 2-3-1 スライドの順番を変更する 2-3-2 セクションを作成する 2-3-3 セクション名を変更する 2-3-4 セクションの順番を変更する 7 テキスト、図形、画像の挿入と書式設定 (1) 3-1-1 箇条書きや段落番号を作成する 3-1-2 テキストに段組みを設定する 3-1-3 テキストに組み込みスタイルを適用する 3-2-1 ハイパーリンクを挿入する 3-2-2 セクションズームやスライドズームのリンクを挿入する 8 テキスト、図形、画像の挿入と書式設定 (2) 3-3-1 図を挿入する 3-3-2 図のサイズを変更する、図をトリミングする 3-3-3 図に組み込みスタイルや効果を適用する

	<p>3-3-4 スクリーンショットや画面の領域を挿入する</p> <p>3-4-1 図形を挿入する</p> <p>3-4-2 図形やテキストボックスにテキストを追加する</p> <p>3-4-3 図形やテキストボックスのサイズを変更する</p> <p>3-4-4 図形やテキストボックスに組み込みスタイルを適用する</p> <p>3-4-5 図形やテキストボックスの書式を設定する</p> <p>9 テキスト、図形、画像の挿入と書式設定 (3)</p> <p>3-4-6 デジタルインクを使用して描画する</p> <p>3-4-7 アクセシビリティ向上のため、グラフィックス要素に代替テキストを追加する</p> <p>3-5-1 図形、画像、テキストボックスを並べ替える</p> <p>3-5-2 図形、画像、テキストボックスを配置する</p> <p>3-5-3 図形や画像をグループ化する</p> <p>3-5-4 配置用のツールを表示する</p> <p>10 表、グラフ、SmartArt、3Dモデル、メディアの挿入 (1)</p> <p>4-1-1 表を作成する、挿入する</p> <p>4-1-2 表に行や列を挿入する、削除する</p> <p>4-1-3 表の組み込みスタイルを適用する</p> <p>4-2-1 グラフを作成する、挿入する</p> <p>4-2-2 グラフを変更する</p> <p>11 表、グラフ、SmartArt、3Dモデル、メディアの挿入 (2)</p> <p>4-3-1 SmartArtを作成する</p> <p>4-3-2 箇条書きをSmartArtに変換する</p> <p>4-3-3 SmartArtにコンテンツを追加する、変更する</p> <p>4-4-1 3Dモデルを挿入する</p> <p>4-4-2 3Dモデルを変更する</p> <p>4-5-1 サウンドやビデオを挿入する</p> <p>4-5-2 画面録画を作成する、挿入する</p> <p>4-5-3 メディアの再生オプションを設定する</p> <p>12 画面切り替えやアニメーションの適用</p> <p>5-1-1 基本的な3D画面切り替えを適用する</p> <p>5-1-2 画面切り替えの効果を設定する</p> <p>5-2-1 テキストやグラフィックス要素にアニメーションを適用する</p> <p>5-2-2 3D要素にアニメーションを適用する</p> <p>5-2-3 アニメーションの効果を設定する</p> <p>5-2-4 アニメーションの軌跡効果を設定する</p> <p>5-2-5 同じスライドにあるアニメーションの順序を並べ替える</p> <p>5-3-1 アニメーションと画面切り替えのタイミングを設定する</p> <p>5-3-2 アニメーションの開始と終了のオプションを設定する</p> <p>13 試験対策講座 (1) (デジタル教材による模擬試験)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 模擬試験プログラムの使い方 ・ MOS PowerPoint 365&2019の試験形式や攻略ポイントの説明 <p>14 試験対策講座 (2) (デジタル教材による模擬試験)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 模擬試験プログラムの実施とポイント解説 <p>15 試験対策講座 (3) (デジタル教材による模擬試験)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 模擬試験プログラムの実施とポイント解説 ・ 最終課題の実施
学習成果・到達目標・基準	◎E : PowerPointを使用して、基本的なスライド作成・操作、グラフィックの挿入、表の作成をし、スライドショーを実行できる。
事前・事後学習	事前学習：試験対策講座で複数回にわたって最終課題を行う。最終課題の内容はMOSの模擬試験問題に準ずるものとなっている。出題範囲は事前に明確になっているため、試験対策講座の授業回を待たず、十分な事前学習による高得点の獲得を期待する。なお授業計画内の1-2-2などの表記はテキストの章番号である。事前学習の参考にすること。(15分) 事後学習：授業内で正答できなかった問題は事後学習で各自補完する。自己解決が困難な場合、メディアセンターを活用すると良い。(30分)
指導方法	パソコンを操作する実習が中心である。90分の授業の前半60分でテキストに沿って操作の解説と実習を行い、後半の30分でその日に学習した内容の理解度を測る練習問題の実習と提出を行う。授業の終盤では、デジタル教材によるMOSの模擬試験を用いた実践演習を行う。 フィードバックの方法：模擬試験は実施の都度授業内で採点し、アドバイスをを行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	E：最終課題で評価を行う。またMOS合格者は最終課題の評価を原則1段階アップさせる。 (MOS合格者は本来A評価の者をS評価に、B評価の者はA評価にアップ。元々S評価の者はそのままS評価の成績となる) 受講態度30%、最終課題70%の割合で成績評価を行う。
テキスト	よくわかるマスターMicrosoft Office Specialist MOS PowerPoint 365&2019 対策テキスト& 問題集 (FOM出版)
参考書	
履修上の注意	「情報リテラシー」履修済みか、同等以上のコンピュータ操作技能があることが履修の前提条件となる。 MOS試験の受験は必須ではないが、積極的に受験することが望ましい。
アクティブ・ラーニング	
ICT・オープンエデュケーションの活用	デジタル教材による模擬試験

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
布施梓、椎名康恵			
Subject Code：1年生G14C22	Subject Code：2年生G14C22	A ZOOM中継型	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 表計算ソフトを使用する職業は非常に多く、その操作スキルは社会で求められるものである。本授業ではMicrosoft Office Specialist (MOS) 検定の「Microsoft Office Excel 365&2019」の出題範囲にそってExcelの機能を学習する。 また、試験に合格するコツや、テクニックなどについても学習する。 (授業目標) ◎E：ワークシートの操作、数式や関数の操作、グラフや図の挿入・編集、データ分析について、MOS Excel 合格相当のPCの操作ができる。
授業計画	1 ガイダンス／ワークシートやブックの管理（1） ・MOS Excel 365&2019の出題範囲の説明 1-1-1 ブック内のデータを検索する 1-1-2 名前付きのセル、セル範囲、ブックの要素へ移動する 1-1-3 ハイパーリンクを挿入する、削除する 1-1-4 既存のブックにワークシートを追加する 1-1-5 ワークシートをコピーする、移動する 2 ワークシートやブックの管理（2） 1-2-1 ページ設定を変更する 1-2-2 ヘッダーやフッターをカスタマイズする 1-2-3 行の高さやの幅を調整する 1-3-1 ブックの表示を変更する 1-3-2 ワークシートの行や列を固定する 1-3-3 ウィンドウの表示を変更する 3 ワークシートやブックの管理（3） 1-3-4 ブックの基本的なプロパティを変更する 1-3-5 数式を表示する 1-3-6 クイックアクセスツールバーをカスタマイズする 1-4-1 印刷設定を行う 1-4-2 印刷範囲を設定する 1-4-3 別のファイル形式でブックを保存する 4 ワークシートやブックの管理（4） 1-4-4 ブック内の問題を検査する 1-4-5 ブック内のアクセシビリティの問題を検査する 1-5-1 テキストファイルからデータをインポートする 1-5-2 .csvファイルからのデータをインポートする 5 セルやセル範囲のデータの管理（1） 2-1-1 オートフィル機能を使ってセルにデータを入力する 2-1-2 形式を選択してデータを張り付ける 2-2-3 セルを結合する、セルの結合を解除する 2-2-4 数値の書式を適用する 6 セルやセル範囲のデータの管理（2） 2-2-5 ≪セル書式設定≫ダイアログボックスからセルの書式を適用する 2-2-6 書式のコピー／貼り付け機能を使用してセルに書式を設定する 2-2-7 セルのスタイルを適用する 2-2-8 セルの書式設定をクリアする 7 セルやセル範囲のデータの管理（3） 2-3-1 名前付き範囲を定義する 2-3-2 テーブルに名前を付ける 2-4-1 スパークラインを挿入する 2-4-2 組み込み条件付き書式を適用する 2-4-3 条件付き書式を削除する 8 テーブルとテーブルのデータの管理（1） 3-1-1 セル範囲からExcelのテーブルを作成する 3-1-2 テーブルにスタイルを適用する 3-1-3 テーブルをセル範囲に変換する 3-2-1 テーブルに行や列を追加する、削除する 3-2-2 テーブルスタイルのオプションを設定する 3-2-3 集計行を挿入する、設定する 3-3-1 複数の列でデータを並べ替える 3-3-2 レコードをフィルターする 9 数式や関数を使用した演算の実行（1） 4-1-1 セルの相対参照、絶対参照、複合参照を追加する 4-1-2 数式の中で名前付きや範囲やテーブル名を参照する

	<p>4-2-1 SUM、AVERAGE、MAX、MIN関数を使用して計算を行う</p> <p>4-2-2 COUNT、COUNTA、COUNTBLANK関数を使用してセルの数を数える</p> <p>数式や関数を使用した演算の実行（2）</p> <p>4-3-1 RIGHT、LEFT、MID関数を使用して文字の書式を設定する</p> <p>4-3-2 UPPER、LOWER、LEN関数を使用して文字の書式を設定する</p> <p>4-3-3 CONCAT、TEXTJOIN関数を使用して文字の書式を設定する</p> <p>11 グラフの管理（1）</p> <p>5-1-1 グラフを作成する</p> <p>5-1-2 グラフシートを作成する</p> <p>5-2-1 ソースデータの行と列を切り替える</p> <p>5-2-2 グラフにデータ範囲（系列）を追加する</p> <p>5-2-3 グラフの要素を追加する、変更する</p> <p>12 グラフの管理（2）</p> <p>5-3-1 グラフのレイアウトを適用する</p> <p>5-3-2 グラフのスタイルを適用する</p> <p>5-3-3 アクセシビリティ向上のため、グラフに代替テキストを追加する</p> <p>13 試験対策講座（1）（ICT：デジタル教材による模擬試験）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 模擬試験プログラムの使い方 ・ MOSの試験形式や攻略ポイントの説明 <p>14 試験対策講座（2）（ICT：デジタル教材による模擬試験）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回模擬試験の実施とポイント解説 <p>15 試験対策講座（3）（ICT：デジタル教材による模擬試験）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第2回模擬試験の実施とポイント解説
学習成果・到達目標・基準	◎E：Excelを使用して、基本的なワークシートの操作、数式や関数の操作、グラフや図の挿入ができる。
事前・事後学習	事前学習：試験対策講座で複数回にわたって最終課題を行う。最終課題の内容はMOSの模擬試験問題に準ずるものとなっている。出題範囲は事前に明確になっているため、試験対策講座の授業回を待たず、十分な事前学習による高得点の獲得を期待する。なお授業計画内の1-2-2などの表記はテキストの章番号である。事前学習の参考にすること。（30分） 事後学習：授業内で正答できなかった問題は事後学習で各自補完する。（30分）
指導方法	パソコンを操作する実習が中心である。前半は講師と共に行う操作練習、後半は個別演習形式で進める。また授業終盤ではデジタル教材によるMOSの模擬試験を用いた実践演習を行う。 フィードバックの方法：模擬試験は実施の都度授業内で採点し、アドバイスをを行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	E：最終課題で評価を行う。またMOS合格者は評価を原則1段階アップさせる。 (MOS合格者は本来A評価の者をS評価に、B評価の者はA評価にアップ。元々S評価の者はそのままS評価の成績となる) 受講態度30%、課題及び最終課題70%の割合で成績評価を行う。
テキスト	よくわかるマスターMicrosoft Office Specialist Microsoft Excel 365&2019 対策テキスト& 問題集 (FOM出版)
参考書	
履修上の注意	「情報リテラシー」履修済みか、同等以上のコンピュータ操作技能があることが履修の前提となる。 リモート授業の場合は、自身のPCが必要となる。さらに「Office 2019 日本語版」または「Microsoft 365 日本語版」がインストールされている必要がある。
アクティブ・ラーニング	
ICT・オープンエデュケーションの活用	デジタル教材による模擬試験 Zoom、GoogleClassroomの利用

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1	1	総合：選択
担当教員			
高橋佳子			
ナンバリング：G15C23	B 対面+Classroom併用型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 運動を通して、日常生活に必要な基礎体力をつける習慣を身につけるために、ストレッチとエクササイズを継続して実施し、自身の体調の変化に気がつくようにする。 他者と協働することの意義や楽しさを体得できるよう、球技種目（バドミントン、ソフトバレーボール、卓球、ニュースポーツ）の基礎技術を取得し、ゲームを行う。 (授業目標) ◎A：ゲーム実施の際、自身の役割を理解し、チームに貢献することで責任感を養うことができる。 ◎E：球技種目（バドミントン、ソフトバレーボール、卓球、ニュースポーツ）の基礎技術を修得することができる。
授業計画	<p>1 ガイダンス（グループワーク：自己紹介） 目的、授業における留意点、評価方法の説明、自己紹介</p> <p>2 対面学生：球技①基礎（実習：バドミントン1）、自宅学生：classroomでのオンデマンド学習 対面学生：ストレッチ、バドミントン（基礎練習） 自宅学生：ストレッチ、腹筋1、脚のシェイプアップ</p> <p>3 対面学生：球技①基礎（実習：バドミントン1）、自宅学生：classroomでのオンデマンド学習 対面学生：ストレッチ、バドミントン（基礎練習） 自宅学生：ストレッチ、腹筋1、脚のシェイプアップ</p> <p>4 対面学生：球技②応用（実習：バドミントン2）、自宅学生：classroomでのオンデマンド学習 対面学生：ストレッチ、バドミントン（ゲーム） 自宅学生：ストレッチ、開脚、腹筋1、脚のシェイプアップ</p> <p>5 対面学生：球技②応用（実習：バドミントン2）、自宅学生：classroomでのオンデマンド学習 対面学生：ストレッチ、バドミントン（ゲーム） 自宅学生：ストレッチ、開脚、腹筋1、脚のシェイプアップ</p> <p>6 対面学生：球技③基礎（実習：ソフトバレー1）、自宅学生：classroomでのオンデマンド学習 対面学生：ストレッチ、ソフトバレーボール（基礎練習） 自宅学生：ストレッチ、開脚、腹筋1、腹筋2、脚のシェイプアップ</p> <p>7 対面学生：球技③基礎（実習：ソフトバレー1）、自宅学生：classroomでのオンデマンド学習 対面学生：ストレッチ、ソフトバレーボール（基礎練習） 自宅学生：ストレッチ、開脚、腹筋1、腹筋2、脚のシェイプアップ</p> <p>8 対面学生：球技④応用（実習：ソフトバレー2）、自宅学生：classroomでのオンデマンド学習 対面学生：ストレッチ、ソフトバレーボール（ゲーム） 自宅学生：ストレッチ、開脚、腹筋1、腹筋2、体幹トレーニング、脚のシェイプアップ</p> <p>9 対面学生：球技④応用（実習：ソフトバレー2）、自宅学生：classroomでのオンデマンド学習 対面学生：ストレッチ、ソフトバレーボール（ゲーム） 自宅学生：ストレッチ、開脚、腹筋1、腹筋2、体幹トレーニング、脚のシェイプアップ</p> <p>10 対面学生：球技⑤（実習：インディアカ）、自宅学生：classroomでのオンデマンド学習 対面学生：ストレッチ、インディアカ（基礎練習、ゲーム） 自宅学生：ストレッチ、開脚、腹筋1、腹筋2、体幹トレーニング、脚のシェイプアップ、脚のマッサージ</p> <p>11 対面学生：球技⑤（実習：インディアカ）、自宅学生：classroomでのオンデマンド学習 対面学生：ストレッチ、インディアカ（基礎練習、ゲーム） 自宅学生：ストレッチ、開脚、腹筋1、腹筋2、体幹トレーニング、脚のシェイプアップ、脚のマッサージ</p> <p>12 対面学生：球技⑥（実習：卓球）、自宅学生：classroomでのオンデマンド学習 対面学生：ストレッチ、卓球（基礎） 自宅学生：ストレッチ、開脚、腹筋1、腹筋2、体幹トレーニング、脚のシェイプアップ、室内エクササイズを考案しよう</p> <p>13 対面学生：球技⑥（実習：卓球）、自宅学生：classroomでのオンデマンド学習 対面学生：ストレッチ、卓球（基礎） 自宅学生：ストレッチ、開脚、腹筋1、腹筋2、体幹トレーニング、脚のシェイプアップ、室内エクササイズを考案しよう</p> <p>14 対面学生：球技⑦（実習：ユニホック）、自宅学生：classroomでのオンデマンド学習 対面学生：ストレッチ、ユニホック（基礎練習、ゲーム） 自宅学生：ストレッチ、開脚、腹筋1、腹筋2、体幹トレーニング、脚のシェイプアップ、室内エクササイズ</p> <p>15 対面学生：球技⑦（実習：ユニホック）、自宅学生：classroomでのオンデマンド学習 対面学生：ストレッチ、ユニホック（基礎練習、ゲーム） 自宅学生：ストレッチ、開脚、腹筋1、腹筋2、体幹トレーニング、脚のシェイプアップ、室内エクササイズ</p>

学習成果・到達目標・基準	◎A：チーム内においての自身の役割を見つけ参加することができる。 ○E：ルールにのっとり、楽しくスポーツすることができる。
事前・事後学習	事前学習：次週の授業までに日常生活の中でスポーツに関するニュースや書籍に目を通すようにする。（30分程度） 事後学習：スポーツする楽しさと意義を感じ、日常生活の中にスポーツすることを取り込んでいくようにする。（30分程度）
指導方法	対面授業+classroom併用型（対面学生：戸板ホールで実習・Googleフォーム提出、自宅学生：classroomで課題・動画学習・Googleフォーム提出） 【対面授業】 ①準備運動としてストレッチやエクササイズを行い、その日の体調を確認する。 ②各々のスポーツ種目の基礎技術を練習し修得する。 ③ゲームのルールを説明した後、ゲームを行う。ゲームを楽しむ中で、スポーツを楽しむためには何が必要かを考えさせる。 フィードバックの仕方：実技と技能カードやGoogleフォームでの感想を総合的に評価し、授業時に返却する。 質問があった場合には、個別に対応する。 【オンライン授業】 ①準備運動としてストレッチやエクササイズを行い、その日の体調を確認する。 ②自身に必要な室内エクササイズを考案し、修正させる。 フィードバックの仕方：Googleフォームでの感想を総合的に評価し、質問があった場合には、個別に対応する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	A：ゲーム中においてチームにおける貢献度と受講態度、また技能カードやGoogleフォームでの提出物に対する取り組みを評価する。 E：各種目における技能を評価する。 チームへの貢献度30%、受講態度30%、提出物10%、各種目における技能30%
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布する。
参考書	「深堀真由美のからだスッキリヨガプログラム」深堀真由美著 主婦の友社 「スタビライゼーション」小林敬和編著 ベースボールマガジン社
履修上の注意	①受講資格：健康診断（心電図も含む）において問題がないと認められた者。 ②体育館シューズ・ジャージ等、運動に適したものを各自で用意し、長爪やアクセサリ等は外すこと。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、実習
ICT・オープンエデュケーションの活用	なし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1	1	総合：選択
担当教員			
高橋佳子			
ナンバリング：G15C24	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 準備運動としてストレッチを実施する中で、心身をほぐす。リズムダンスの基礎的なステップを修得後、リズムに合わせて踊れるよう練習を実施する。修得した曲目の中から自身の課題曲を決定し、グループでフォーメーションの創作を実施し、人前で発表できるようにする。 (授業目標) ◎A：修得した曲の中からグループ創作を実施し、チームをまとめる力を身につけることができる。 ◎E：準備運動としてストレッチを行い、リズムダンスの基礎的なステップを修得することで個人の身体表現を磨き、リズムに乗って楽しく踊ることができる。
授業計画	<p>1 ガイダンス（グループワーク：自己紹介） 目的、授業における留意点、評価方法の説明、自己紹介紹介</p> <p>2 ストレッチ、ウォームアップ ストレッチ、リズムダンス（ウォームアップ）</p> <p>3 リズムダンス①（実習：リズムダンス） ストレッチ、リズムダンス（各種ステップ1）</p> <p>4 リズムダンス②（実習：リズムダンス） ストレッチ、リズムダンス（各種ステップ2）</p> <p>5 リズムダンス③（実習：リズムダンス） ストレッチ、リズムダンス（各種ステップ・仕上げ）</p> <p>6 リズムダンス④（実習：リズムダンス） ストレッチ、リズムダンス（各種ステップ・フレーズ1）</p> <p>7 リズムダンス⑤（実習：リズムダンス） ストレッチ、リズムダンス（各種ステップ・フレーズ2）</p> <p>8 リズムダンス⑥（実習：リズムダンス） ストレッチ、リズムダンス（各種ステップ・仕上げ）</p> <p>9 リズムダンス⑦（実習：リズムダンス） ストレッチ、リズムダンス（各種ステップ・フレーズ1）</p> <p>10 リズムダンス⑧（実習：リズムダンス） ストレッチ、リズムダンス（各種ステップ・フレーズ2）</p> <p>11 リズムダンス⑨（実習：リズムダンス） ストレッチ、リズムダンス（各種ステップ・仕上げ）</p> <p>12 対面学生：グループ創作（グループワーク）、自宅学生：classroomでのオンデマンド学習 対面学生：ストレッチ、リズムダンス（グループ創作）（ICT：iPad） 自宅学生：ストレッチ、開脚、リズムダンス</p> <p>13 対面学生：グループ創作（グループワーク）、自宅学生：classroomでのオンデマンド学習 対面学生：ストレッチ、リズムダンス（グループ創作）（ICT：iPad） 自宅学生：ストレッチ、開脚、リズムダンス</p> <p>14 対面学生：創作ダンス発表、自宅学生：classroomでのオンデマンド学習 対面学生：グループ創作した作品発表（ICT：iPad） 自宅学生：室内で行うエクササイズを考えよう</p> <p>15 対面学生：創作ダンス発表、自宅学生：classroomでのオンデマンド学習 対面学生：グループ創作した作品発表（ICT：iPad） 自宅学生：室内で行うエクササイズを考えよう</p>
学習成果・到達目標・基準	◎A：自身にあった課題曲を自分で選択し、創作活動に参加することができる。 ◎E：軽いエクササイズやストレッチ、リズムダンスに苦手意識を持たずに楽しみ参加することができる。
事前・事後学習	事前学習：自分自身の身体の変化に気がつけるようにチェックを行う。（30分程度） 事後学習：毎回導入として行うストレッチやマッサージの方法を覚え、日常生活でも実践していくようにする。（30分程度）
指導方法	【2回目から11回目】ZOOM中継型（対面学生：教室で講義、自宅学生：ZOOMで講義）となる。 【12回目から15回目】対面授業+classroom併用型（対面学生：戸板ホールで実習・Googleフォーム提出、自宅学生：classroomで課題・動画学習・Googleフォーム提出） ①準備運動としてストレッチを行い、その日の体調を確認する。 ②ウォームアップを音楽に合わせて行い、リズムに合わせて動くたのしさを修得し、健康でしなやかな日常生活を送れるようにする。 ③リズムダンスを修得した後、グループ創作を行う。個人の身体表現を磨き、他者との身体コミュニケーション

	ンを行う意義について理解を深めさせる。 フィードバックの方法：iPadで動きや作品を撮影し、その動画を用いて改善していく。質問があった場合には、個別に対応する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	A：グループ活動時の貢献度と受講態度、またGoogleフォームなど提出物に対する取り組みを評価する。 E：個人技能を評価する。 グループへの貢献度30%、受講態度20%、提出物20%、個人技能30%
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布する。
参考書	「深堀真由美のからだスッキリヨガプログラム」深堀真由美著 主婦の友社 「プロフェッショナルピラティス」アラン・ハードマン著 池田美紀訳 ガイアブックス 「ダンス解剖学」ジャッキー・グリーン・ハース著 武田淳也監訳 ベースボール・マガジン社
履修上の注意	①受講資格：健康診断(心電図も含む)において問題がないと認められた者。 ②体育館シューズ・ジャージ等、運動に適したものを各自で用意し、長爪やアクセサリ等は外すこと。
アクティブ・ラーニング	グループワーク：実習、創作
I C T・オープンエデュケーションの活用	グループワークの際、iPadで動きや作品を撮影

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	総合：選択
担当教員			
高橋佳子			
ナンバリング：G15C25	B 対面+Classroom併用型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 様々なスポーツ種目の基礎技術を修得しゲームを実施する。ゲームを通して、自身にあった生涯スポーツを発見し楽しみながら健康・体力の維持・増進を図ることを目標とする。 実習期間：5日間(土曜日) 実習場所：八王子キャンパス(但し令和3年度は、コロナ感染防止の為、三田キャンパス戸板ホールで実施する予定。) (授業目標) ◎A：自身にあった運動をみつけ、参加することができる。 ○E：修得した基礎技術を使用してゲームに参加できる。
授業計画	<p>1 体づくり(実習：体ほぐし) ストレッチ、体ほぐし、ドッジビー</p> <p>2 ラケット種目①(実習：バドミントン) バドミントン(基礎練習)</p> <p>3 ラケット種目②(実習：バドミントン) バドミントン(ゲーム)</p> <p>4 体づくり(実習：エクササイズ) ストレッチ、エクササイズ、ドッジビー</p> <p>5 球技(実習：ソフトバレーボール) ソフトバレーボール(基礎練習)</p> <p>6 球技(実習：ソフトバレーボール) ソフトバレーボール(ゲーム)</p> <p>7 体づくり(実習：エクササイズ) ストレッチ、エクササイズ、ドッジビー</p> <p>8 ニュースポーツ①(実習：インディアカ) インディアカ(基礎練習)</p> <p>9 ニュースポーツ②(実習：インディアカ) インディアカ(ゲーム)</p> <p>10 体づくり(実習：エクササイズ) ストレッチ、エクササイズ、ドッジビー</p> <p>11 ラケット種目③(実習：卓球) 卓球(基礎練習)</p> <p>12 ラケット種目④(実習：卓球) 卓球(ゲーム)</p> <p>13 体づくり(実習：エクササイズ) ストレッチ、エクササイズ、ドッジビー</p> <p>14 ニュースポーツ③(実習：ユニホック) ユニホック(基礎練習)</p> <p>15 ニュースポーツ④(実習：ユニホック) ユニホック(ゲーム)</p>
学習成果・到達目標・基準	◎A：健康・体力の維持・増進を図る姿勢を身につけることができる。 ○E：種々のスポーツ種目の基礎技術を修得できる。
事前・事後学習	事前学習：今後の自身の生活に活かせるように「生涯スポーツ」について調べておく。(30分程度) 事後学習：日常生活の中にもスポーツを取り込んでいくようにする。(60分程度)
指導方法	①準備運動としてストレッチやエクササイズを行い、その日の体調を確認する。 ②各々のスポーツ種目の基礎技術を練習し修得する。 ③ゲームのルールを説明した後、ゲームを行う。ゲームを楽しむ中で、スポーツを楽しむために何が必要かを考えさせる。 フィードバックの仕方：実技と技能カードやGoogleフォームを総合的に評価し、授業時に返却する。質問があった場合には、個別に対応する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	A：積極的にスポーツを実施しているか、チームへの貢献度、またスコア表やGoogleフォームなど提出物への取り組む姿勢を評価する。 E：各種目における技能を評価する。

	受講態度30%、チームにおける貢献度30%、提出物10%、各種目における技能30%
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布する。
参考書	「スポーツの歴史と文化—スポーツ史を学ぶ」新井博、榊原浩晃著 道和書院 「深堀真由美のからだスッキリヨガプログラム」深堀真由美著 主婦の友社
履修上の注意	①受講資格：健康診断（心電図も含む）において問題がないと認められた者。 ②運動靴・ジャージ等、運動に適したものを各自で用意し、長爪やアクセサリ等ははずすこと。 ③事前に指定されたオリエンテーションに必ず参加すること。 ④実習期間：5日間（土曜日）実習場所：戸板ホール（令和3年度に限る。）
アクティブ・ラーニング	実習
ICT・オープンエデュケーションの活用	なし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	総合：選択
担当教員			
高橋佳子			
ナンバリング：G15C26	B 対面+Classroom併用型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 様々なスポーツ種目の基礎技術を修得しゲームを実施する。ゲームを通して、自身にあった生涯スポーツを発見し楽しみながら健康・体力の維持・増進を図ることを目標とする。 実習期間：5日間(土曜日) 実習場所：八王子キャンパス(但し令和3年度は、コロナ感染防止の為、三田キャンパス戸板ホールで実施する予定。) (授業目標) ◎A：自身にあった運動をみつけることができる。 ○E：修得した基礎技術を使用してゲームに参加できる。
授業計画	<p>1 体づくり(実習：体ほぐし) ストレッチ、体ほぐし、ドッジビー</p> <p>2 ラケット種目①(実習：バドミントン) バドミントン(基礎練習)</p> <p>3 ラケット種目②(実習：バドミントン) バドミントン(ゲーム)</p> <p>4 体づくり(実習：エクササイズ) ストレッチ、エクササイズ、ドッジビー</p> <p>5 ニュースポーツ①(実習：インディアカ) インディアカ(基礎練習)</p> <p>6 ニュースポーツ②(実習：インディアカ) インディアカ(ゲーム)</p> <p>7 体づくり(実習：エクササイズ) ストレッチ、エクササイズ、ドッジビー</p> <p>8 ラケット種目①(実習：卓球) 卓球(基礎練習)</p> <p>9 ラケット種目②(実習：卓球) 卓球(ゲーム)</p> <p>10 体づくり(実習：エクササイズ) ストレッチ、エクササイズ、ドッジビー</p> <p>11 ニュースポーツ③(実習：ユニホック) ユニホック(基礎練習)</p> <p>12 ニュースポーツ④(実習：ユニホック) ユニホック(ゲーム)</p> <p>13 体づくり(実習：エクササイズ) ストレッチ、エクササイズ、ドッジビー</p> <p>14 球技(実習：ソフトバレーボール) ソフトバレーボール(基礎練習)</p> <p>15 球技(実習：ポートボール) ソフトバレーボール(ゲーム)</p>
学習成果・到達目標・基準	◎A：健康・体力の維持・増進を図る姿勢を身につけることができる。 ○E：様々なスポーツ種目の基礎技術を修得できる。
事前・事後学習	事前学習：今後の自身の生活に活かせるように「生涯スポーツ」について調べておく。(30分程度) 事後学習：日常生活の中にもスポーツを取り込んでいくようにする。(60分程度)
指導方法	①準備運動としてストレッチやエクササイズを行い、その日の体調を確認する。 ②各々のスポーツ種目の基礎技術を練習し修得する。 ③ゲームのルールを説明した後、ゲームを行う。ゲームを楽しむ中で、スポーツを楽しむために何が必要かを考えさせる。 フィードバックの仕方：実技と技能カードや感想用紙を総合的に評価し、授業時に返却する。質問があった場合には、個別に対応する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	A：積極的にスポーツを実施しているか受講態度、チームにおける貢献度、スコア表やGoogleフォームなど提出物への取り組み姿勢を評価する。 E：各種目における技能を評価する。

	受講態度30%、チームにおける貢献度30%、提出物10%、各種目における技能30%
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布する。
参考書	「スポーツの歴史と文化ースポーツ史を学ぶ」新井博、榊原浩晃著 道和書院 「深堀真由美のからだスッキリヨガプログラム」深堀真由美著 主婦の友社
履修上の注意	①受講資格：健康診断（心電図も含む）において問題がないと認められた者。 ②運動靴・ジャージ等、運動に適したものを各自で用意し、長爪やアクセサリ等ははずすこと。 ③事前に指定されたオリエンテーションに必ず参加すること。 ④実習期間：5日間（土曜日）実習場所：戸板ホール（令和3年度に限る。）
アクティブ・ラーニング	実習
ICT・オープンエデュケーションの活用	なし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	総合：必修
担当教員			
中村公子、玉川明日美、PIPE David、STYLIANOU Alexander			
ナンバリング：G16A27	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 読む・書く・聞く・話すの4技能をバランスよく身につけられるよう、Listening/Speakingをネイティブ講師から、Reading/Writingを日本人講師から学ぶ。LSでは、ビジネスシーンでのコミュニケーションが円滑に運ぶための表現やフレーズをロールプレイなどさまざまなアクティビティを通して身につける。RWでは、英文を正確に読み取るためのリーディングスキルと、自らの考えを伝えるためのライティング技法を学ぶ。双方の内容すべてを通して、英語圏におけるものの考え方や文化的背景を知る。 (授業目標) ○B：英語によるコミュニケーション能力を高める ◎E：多角的なアプローチにより、バランスの取れた4技能のスキルアップを図る。 D：グローバルな視点を身につける (Reading and Writing Class) E・D：さまざまな国の観点から書かれた文章を読み、英語特有の発想や表現パターンを身につける (Listening and Speaking Class) B・D：Communicate in a variety of everyday situations and discuss a range of topics (日常のさまざまな場面における幅広いトピックに英語で応対できる力を身につける)
授業計画	1 Course Orientation, Basic English Review Reading and Writing(RW): Course orientation / Unit 1 Why Do We Wear Clothes? Listening and Speaking(LS): Course introduction and orientation / Classroom language / Ice-breaker activities 2、3 RW: Unit 1 Why Do We Wear Clothes? RW: Clothes for important days / Clothes for every day / Looking good (Zoom:グループワーク / Google Classroom:小テスト・課題) 2、3 LS: General English & ESP General English: Discuss Skills and Abilities ESP: Garments; Colours 4、5 RW: Unit 2 The History of Clothes RW: Making clothes / Making fabrics (Zoom:グループワーク / Google Classroom:小テスト・課題) 4、5 LS: General English & ESP General English: Introducing and Asking about Family Members ESP: Fabric Types 6、7 RW: Unit 2 The History of Clothes, Fabrics, Unit 5 Fabrics Silk / Cotton / Wool / Synthetic Fabrics (Zoom:グループワーク / Google Classroom:小テスト・課題) 6、7 LS: General English & ESP General English: Describing personalities ESP: Fabric Patterns 8、9 RW: Unit 5 Unit 3 The Language of Clothes Traditional costume (Zoom:グループワーク / Google Classroom:小テスト・課題) 8、9 LS: General English & ESP General English: Describing appearance ESP: Garment Creation 10、11 RW: Unit 3 The Language of Clothes(Presentation), Unit 6 The Clothing Industry Group Presentation Designers, Buyers, Factory workers, Sales clerks (Zoom:グループワーク / Google Classroom:小テスト・課題) 10、11 LS: General English & ESP General English: Talking about the Past ESP: Product Promotion and Marketing 12、13 RW: Unit 6 The Clothing Industry The supply chain (Zoom:グループワーク / Google Classroom:小テスト・課題) 12、13 LS: Role-Play Preparation & ESP Role-Play Preparation ESP: Fashion Displays 14、15 RW: Unit 8 Crazy Clothes Fashions shows, Fashion victims, Street fashion

	(Zoom:グループワーク / Google Classroom:小テスト・課題) 14、15 LS:Role-Play Presentations Role-Play Presentations & Course Wrap-up
学習成果・到達目標・基準	○B:場面に適したコミュニケーションを適切な英語を用いて行うことができる。 ◎E:英文の内容を正しく理解できる。英語らしい表現で自らの考えを表すことができる。 D:自らの専攻分野で必要となる英語を身につけ、文化的な背景に即して正しく使うことができる。 (RW) E:スキミングやスキヤニングなどのリーディング技法を用いて、英文の主旨を正確に掴むことができる。 D:語彙力を増やし、さまざまな表現を用いて、自らの考えを英語で伝えることができる。 (LS) B:Use a variety of grammar structures in spoken English D:Understand and use vocabulary related to their particular area of study
事前・事後学習	事前学習 (RW) 小テストに備えて学習する。発表等の準備を進める。(約30分) (LR) Both homework and preview work are compulsory. Towards the end of the semester, students are expected to continue work on their presentations out of class. They will be expected to prepare for their presentations (e.g. writing and editing their scripts, practice performing their scripts etc.).(約30分)(事前・事後両方の学習が必須。プレゼンテーションに必要なすべてにこの項目の準備を進めて学期末の発表に備える。) 事後学習 (RW) テキストの内容に関連したワークや課題に取り組む。(約30分) (LR) Homework will be a review of target language studied in class. (約30分) (既習語彙の復習を行う。)
指導方法	2週目よりRWとLSを1週交代に行う。RWはオンライン受講週にZoomで、LSは登校週に対面で授業を実施する。 (RW) リーディングスキル(主旨の把握、文章構成の理解など)の育成を目標に、各種ワークやアクティビティを与えながら、楽しんで英文を読むことができるよう指導する。関連する映画や動画なども適宜取り入れる。また、テーマを与えて作文し、それを発表させる機会をもつことで、英語での発信力も養えるよう指導する。フィードバックの方法:発表・小テストの実施と、その解説及びコメントの返却 (LR) The course consists of an introduction class, six ESP lessons, three role-play presentation classes, and five general English lessons. The semester begins with a focus on general English skills, and ends with role-play presentations. The rest of the course alternates between general English and ESP material appropriate to the students' major. Vocabulary quizzes will be administered to assess language retention and encourage language review. (一般英会話・学科の学びに繋がる専門英語・ロールプレイプレゼンテーションで授業を構成する。適宜単語テストを行う。)
アセスメント・成績評価の方法・基準	(RW) E:各ユニットの課題や作文、発表等で評価する。 D:小テストや定期試験、課題等で評価する。 小テスト 10% 課題・提出物・貢献度 40% 定期試験 50% (LR) B・D:Speaking ability is measured through role-play presentations, and their listening ability is assessed via a listening test in week sixteen (outside of the fifteen-week semester). (スピーキング力はロールプレイの発表から、リスニング力は定期試験テストから評価する) Role-Play Presentation (ロールプレイ発表) 35% Listening Test (リスニングテスト) 25% Vocabulary Quizzes (単語テスト) 20% Participation (貢献度) 20% *最終的な評価は、RW/LSそれぞれの評価を合わせて100%としたものから算出する。
テキスト	(RW) Clothes Then and Now Richard Northcott (2018) Oxford University Press (LS) なし。適宜プリント等を配布する。
参考書	授業の際に指示する
履修上の注意	グローバル化の進む社会での基礎を作る授業です。積極的に取り組み英語での発信力を高めましょう。毎回辞書を用意すること。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション ディスカッション グループワーク ロールプレイプレゼンテーション (LS 13-15週)
ICT・オープンエデュケーションの活用	Zoom Google Classroom

講義科目名称： Integrated English (Food & Nutrition) 授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	総合：必修
担当教員			
中村公子、OYAMA Kevin			
ナンバリング：			
添付ファイル			

<p>授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現</p>	<p>(授業概要) 読む・書く・聞く・話すの4技能をバランスよく身につけられるよう、Listening/Speakingをネイティブ講師から、Reading/Writingを日本人講師から学ぶ。LSでは、ビジネスシーンでのコミュニケーションが円滑に運ぶための表現やフレーズをロールプレイなどさまざまなアクティビティを通して身につける。RWでは、英文を正確に読み取るためのリーディングスキルと、自らの考えを伝えるためのライティング技法を学ぶ。双方の内容すべてを通して、英語圏におけるものの考え方や文化的背景を知る。</p> <p>(授業目標) ○B：英語によるコミュニケーション能力を高める ◎E：多角的なアプローチにより、バランスの取れた4技能のスキルアップを図る。 D：グローバルな視点を身につける</p> <p>(Reading and Writing Class) E・D：さまざまな国の観点から書かれた文章を読み、英語特有の発想や表現パターンを身につける (Listening and Speaking Class) B・D：Communicate in a variety of everyday situations and discuss a range of topics (日常のさまざまな場面における幅広いトピックに英語で応対できる力を身につける)</p>
<p>授業計画</p>	<p>1 Course Orientation Reading and Writing(RW): Course orientation / Unit 1 Unit 1 Food for life : Proteins / Carbohydrates Listening and Speaking(LS): Course introduction and orientation / Classroom language / Ice-breaker activities</p> <p>2、3 RW: Unit 1 Food for life Proteins / Carbohydrates / Fats / Vitamins / Minerals (Zoom:グループワーク / Google Classroom: 小テスト・課題)</p> <p>2、3 LS: General English & ESP General English: Discuss Personal Skills and Abilities ESP: Food; Food Groups</p> <p>4、5 RW: Unit 2 Food Producers Arable Farmers (Zoom:グループワーク / Google Classroom: 小テスト・課題)</p> <p>4、5 LS: General English & ESP General English: Introducing and Asking about Family Members ESP: Food Preparation</p> <p>6、7 RW: Unit 2 Food Producers Livestock Farmers / Fishermen (Zoom:グループワーク / Google Classroom: 小テスト・課題)</p> <p>6、7 LS: General English & ESP General English: Describing personalities ESP: Weights and Measures</p> <p>8、9 RW: Unit 3 Food origins Popcorn / Chocolate (Zoom:グループワーク / Google Classroom: 課題)</p> <p>8、9 LS: General English & ESP General English: Describing appearance ESP: Essential Macronutrients and their Sources</p> <p>10、11 RW: Unit 3 Food origins, Unit 4 Typical Dishes Potato Chips / Mexican dishes (Zoom:グループワーク / Google Classroom: 小テスト・課題)</p> <p>10、11 LS: General English & ESP General English: Talking about the Past ESP: Essential Micronutrients and their Sources</p> <p>12、13 RW: Unit 4-7 & Group Presentation, Unit 8 Giving thanks Research and presentation / Thanksgiving in the U.S (Zoom:グループワーク / Google Classroom: 課題)</p> <p>12、13 LS: Role-Play Preparation & ESP Role-Play Preparation ESP: Food Labels</p> <p>14、15 RW: Unit 8 Giving thanks Thanksgiving in Korea (Zoom:グループワーク / Google Classroom: 小テスト・課題)</p>

	14、15 LS: Role-Play Presentations Role-Play Presentations & Course Wrap-up
学習成果・到達目標・基準	<p>○B: 場面に適したコミュニケーションを適切な英語を用いて行うことができる。 ◎E: 英文の内容を正しく理解できる。英語らしい表現で自らの考えを表すことができる。 D: 自らの専攻分野で必要となる英語を身につけ、文化的な背景に即して正しく使うことができる。</p> <p>(RW) E: スキミングやスキヤニングなどのリーディング技法を用いて、英文の主旨を正確に掴むことができる。 D: 語彙力を増やし、さまざまな表現を用いて、自らの考えを英語で伝えることができる。</p> <p>(LS) B: Use a variety of grammar structures in spoken English D: Understand and use vocabulary related to their particular area of study</p>
事前・事後学習	<p>事前学習 (RW) 小テストに備えて学習する。発表等の準備を進める。(約30分) (LR) Both homework and preview work are compulsory. Towards the end of the semester, students are expected to continue work on their presentations out of class. They will be expected to prepare for their presentations (e.g. writing and editing their scripts, practice performing their scripts etc.). (約30分) (事前・事後両方の学習が必須。プレゼンテーションに必要なすべての項目の準備を進めて学期末の発表に備える。)</p> <p>事後学習 (RW) テキストの内容に関連したワークや課題に取り組む。(約30分) (LR) Homework will be a review of target language studied in class. (約30分) (既習語彙の復習を行う。)</p>
指導方法	<p>2週目よりRWとLSを1週交代に行う。RWはオンライン受講週にZoomで、LSは登校週に対面で授業を実施する。</p> <p>(RW) リーディングスキル(主旨の把握、文章構成の理解など)の育成を目標に、各種ワークやアクティビティを与えながら、楽しんで英文を読むことができるよう指導する。関連する映画や動画なども適宜取り入れる。また、テーマを与えて作文し、それを発表させる機会をもつことで、英語での発信力も養えるよう指導する。フィードバックの方法: 発表・小テストの実施と、その解説及びコメントの返却</p> <p>(LR) The course consists of an introduction class, six ESP lessons, three role-play presentation classes, and five general English lessons. The semester begins with a focus on general English skills, and ends with role-play presentations. The rest of the course alternates between general English and ESP material appropriate to the students' major. Vocabulary quizzes will be administered to assess language retention and encourage language review. (一般英会話・学科の学びに繋がる専門英語・ロールプレイプレゼンテーションで授業を構成する。適宜単語テストを行う。)</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>(RW) E: 各ユニットの課題や作文、発表等で評価する。 D: 小テストや定期試験、課題等で評価する。 小テスト 10% 課題・提出物・貢献度 40% 定期試験 50%</p> <p>(LR) B・D: Speaking ability is measured through role-play presentations, and their listening ability is assessed via a listening test in week sixteen (outside of the fifteen-week semester). (スピーキング力はロールプレイの発表から、リスニング力は定期試験テストから評価する)</p> <p>Role-Play Presentation (ロールプレイ発表) 35% Listening Test (リスニングテスト) 25% Vocabulary Quizzes (単語テスト) 20% Participation (貢献度) 20%</p> <p>*最終的な評価は、RW/LSそれぞれの評価を合わせて100%としたものから算出する。</p>
テキスト	<p>(RW) Food Around the World Robert Quinn (2010) Oxford University Press (LS) なし。適宜プリント等を配布する。</p>
参考書	授業の際に指示する
履修上の注意	グローバル化の進む社会での基礎を作る授業です。積極的に取り組み英語での発信力を高めましょう。毎回辞書を用意すること。
アクティブ・ラーニング	<p>プレゼンテーション ディスカッション グループワーク ロールプレイプレゼンテーション</p>
ICT・オープンエデュケーションの活用	<p>Zoom Google Classroom</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	総合：選択
担当教員			
OYAMA Kevin			
ナンバリング：G16C29	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 道案内やお土産の提案など、外国人観光客とのコミュニケーションにおいて求められる英語を学びます。会話表現や文法に加え、日本文化を説明するための語彙や表現も学び、ロールプレイ等を通して実際に練習します。また、「英語応対能力検定」の「一般試験」への試験対策も行います。 (授業目標) ◎E：外国人観光客とコミュニケーションを取り、もてなすことができる。 ◎E：外国人観光客の要望を正しく理解し、アクティビティの提案や的確な補助ができる。 ◎D：基本的な日常英会話表現を理解し、使用できる。 ◎D：日本の文化やエチケット、習慣を正しく理解し、英語で説明できる。
授業計画	1 Units 1 & 2: Giving Directions; Suggesting Modes of Transportation (アクティブラーニング：グループワーク) 道案内、交通機関を説明する 2 Units 3 & 4: Telling Someone Where They are; Talking about Landmarks (アクティブラーニング：グループワーク) ランドマークを説明する 3 Units 5 & 6: Recommending Attractions; Recommending Restaurants (アクティブラーニング：グループワーク) おすすめのレストランを教える 4 Units 7 & 9: Directing to souvenir shops; Directing to Wi-Fi (アクティブラーニング：グループワーク) 土産屋やWi-Fiスポットを案内する 5 Units 11 & 12: Giving Bus Information; Explaining Where to Transfer/ Assessed Role-Play (アクティブラーニング：ロールプレイ) バスの乗り降りの仕方を説明する、ロールプレイ発表 6 Units 13 & 15: Explaining Where A Train Goes; Explaining Whether Seats Are Reserved (アクティブラーニング：グループワーク) 電車の行先や席の予約について説明する 7 Units 17 & 18: Taking Visitors' Photos; Telling the Time (アクティブラーニング：グループワーク) 写真を撮影する、時間を教える 8 Units 19 & 20: Lending and Giving Items; Asking Someone's Destination and Purpose (アクティブラーニング：グループワーク) 物を貸したり譲ったりする際の表現、行先や目的を訪ねる 9 Units 21 & 23: Enquiring about Events; Explaining Food Specialties (アクティブラーニング：グループワーク) イベントについて問い合わせる、名物料理について説明する 10 Units 24 & 27: Recommending and Explaining Souvenirs; Summarizing Event Announcements/Assessed Role-Play (アクティブラーニング：ロールプレイ) お土産をすすめる、情報を要約する、ロールプレイ発表 11 Units 28 & 29: Explaining Kanji; Talking about Yourself (アクティブラーニング：グループワーク) 漢字について説明する、自分について話す 12 Units 30 & 31: Talking about Past Travel Experience; Explaining Japanese Food (アクティブラーニング：グループワーク) 旅行の経験について話す、日本食について説明する 13 Units 33 & 34: Describing Taste; Recommending Food (アクティブラーニング：グループワーク) 味に関する表現、食べ物をすすめる 14 Units 35 & 36: Dealing with Smokers; Directing to the Police (アクティブラーニング：グループワーク) 喫煙に関する表現、トラブルシューティング 15 Units 37 & 39: Responding to Requests for Help; Dealing with Emergencies/ Assessed Role-Play / course wrap-up (アクティブラーニング：ロールプレイ) 緊急事態の際の対応、ロールプレイ発表

学習成果・到達目標・基準	<p>◎E：外国人観光客と基本的なコミュニケーションを取り、もてなすことができる。</p> <p>◎E：外国人観光客の要望を理解し、適切な補助ができる。</p> <p>○D：基本的な日常英会話表現を理解し、使用できる。</p> <p>○D：日本の文化やエチケット、習慣を理解し、英語で説明できる。</p>
事前・事後学習	<p>(事前学習) 教科書を読みわからない語彙の意味を調べる (15分)、ロールプレイの準備 (15分) Read the textbook for the next lesson and look up any unknown words (15 minutes). Prepare for the assessed roleplays. (15 minutes)</p> <p>(事後学習) 授業内で扱った重要語句や文法事項の復習 (30分) Review target language studied in class. (30 minutes)</p>
指導方法	<p>一回の授業で教科書を2ユニットずつ進めます。適宜補助教材も使用します。また、講座の中では「英語応対能力検定」の「一般試験」への試験対策も行いますので、受講生の皆さんには同試験の受験を推奨します。</p> <p>5回目、10回目、15回目授業内でロールプレイを実施します。授業内で扱ったトピックをもとにロールプレイを作成・発表し、原稿と発表のパフォーマンスを評価します。</p> <p>Each lesson focuses on two units from the textbook, in addition to supplementary material that expands on the topics. Over the course of the semester, thirty units will be covered. Students will be recommended to take the general English version of the Eigo Otai Noryoku Kentei (Hospitable English Ability Response Test). The course's content reflects that, and aims at developing the skills necessary to meet the test's criteria.</p> <p>[Role-plays] Students will be assessed every five lessons through role-plays. They may choose any of the topics that have been covered within that particular five-week segment, and are assessed both for both role-play script-writing and enactment.</p> <p>フィードバックの方法：ロールプレイ実施の際、発表および原稿に対し口頭・紙面にてフィードバックを行います。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>E：ロールプレイの発表および原稿で評価する。</p> <p>D：小テストや定期試験で評価する。</p> <p>Role-play presentations (ロールプレイ発表) 25%</p> <p>Role-play writing (ロールプレイ プレゼンテーション スクリプトの作成) 15%</p> <p>Final exam (定期試験) 40%</p> <p>Participation (授業内外での貢献度) 20%</p>
テキスト	Machikado Eikaiwa (Obunsha, 2016)
参考書	授業の際に指示する
履修上の注意	グローバル化の進む社会での基礎を作る授業です。積極的に取り組み英語での発信力を高めましょう。毎回辞書を用意すること。
アクティブ・ラーニング	グループワーク(毎回) ロールプレイプレゼンテーション(5, 10, 15週)
I C T・オープンエデュケーションの活用	Classroom等を通してプレゼン資料の提出

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	総合：選択
担当教員			
中村公子			
ナンバリング：			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>(授業概要) 前期「Integrated English」で学習したリーディングスキルを用いながら、より高い読解力を養うことを目的とする。まずは比較的平易な英文を読み内容を把握する。次にその中で学んだ語彙や文法、文章構成方法を用いて、自分で英文を作成するという2つの段階から、リーディングとライティングを同時に修得する。</p> <p>(授業目標) C：英文の読解力を高め、内容に関する自らの意見や考えをまとめることができる。 ○D：英文の文章構造を理解し、リーディングスキルの向上を図る。 ◎E：様々な手法を用いて、「人に伝える」英文を正しく書くことができる。</p>		
授業計画	1	Course Orientation, Unit 1 These Are the Fact Writing to Inform	
	2	Unit 2 Separating into Groups Writing to Classify	
	3	Unit 3 If I Were You... Writing to Advise	
	4	Unit 4 Sizing Things Up Writing to Evaluate	
	5	Unit 5 Mission Accomplished Describing an Achievement	
	6	unit 6 This Really Happened Reporting an Event	
	7	Unit 7 Every Problem Has a Solution Solving a Problem	
	8	Unit 8 Let Me Make It Clear Writing to Clarify	
	9	Unit 9 Don't You See It My Way? Persuasive Writing	
	10	Unit 10 One Thing Leads to Another Cause & Effect	
	11	Unit 11 This Is the Same, but That's Not Compare & Contrast	
	12	Unit 12 What Do You Think? Expressing an Opinion	
	13	Unit 13 Weighing strengths and Weaknesses Pros & Cons	
	14	Unit 14 One Step at a Time Describing a Process	
	15	Unit 15 Data Presentation the Simple Way Explaining Graphs	
学習成果・到達目標・基準	<p>C：英文から筆者の意図することを正しく読み取り、それに対する自らの意見を文章で表すことができる。 ○D：記事や報告書、日記や物語などさまざまなタイプの英文に慣れる。 ◎E：Reading教材で学んだ語彙や文法、文章構成を用いて、自らの意見や各種レポートを書くことができる。</p>		
事前・事後学習	<p>事前学習：語彙・文法項目の予習、日ごろから英語で書かれた記事や雑誌を見るように心がける(40分程度) 事後学習：既習事項を基にした英作文等の課題(40分程度)</p>		
指導方法	<p>前期に養ったリーディングスキル(主旨の把握、文章構成の理解など)を用いながら、より高い読解力を養うことを目的に、さまざまなタイプの英文にできるだけ数多く触れさせる。関連する映画や動画なども適宜取り入れ、背景となる知識や考え方への理解を促す。また、文法力や語彙力の強化を図り、それらを適切に用いた文章を作成できるよう、毎回の英作文の課題を必須とする。 フィードバックの方法：発表・課題・小テストの実施と、その解説及びコメントの返却</p>		

アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	C：グループワークやディスカッション、課題等で評価する。 D：ワークや課題、定期テストで評価する。 E：小テストや課題英作文、発表等で評価する。 小テスト 10% 課題・提出物・貢献度 40% 定期試験 50%
テキスト	Jigsaw INTRO Insight Reading to Successful Writing Robert Hickling, Jun Yashima(2021) National Geographic Learning
参考書	授業の際に指示する
履修上の注意	毎回辞書を用意すること。
アクティブ・ラー ニング	グループワーク プレゼンテーション ディスカッション
I C T・オープン エデュケーション の活用	Zoom Google Classroom

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	総合：選択
担当教員			
PIPE David、STYLIANOU Alexander			
ナンバリング：G26C31	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) ビジネスの現場において使用される英語彙や表現を学び、電話の応対や仕事内容の説明などの基本的なコミュニケーションを取れるように、ロールプレイ等を通して特にスピーキング・リスニングを学修する。 (授業目標) ◎E：英語を使って商品の説明やサービスの提案など、ビジネスシーンに合わせた英語での発信ができる。 ◎E：自分の職場や仕事について英語で適切に説明できる。 ◎D：ビジネスシーンにおいて使用される英語表現を理解し、状況に合った適切なやり取りができる。
授業計画	<p>1 Unit 1: Introducing; Exchanging Information (アクティブラーニング：グループワーク) 自己紹介、情報を交換する</p> <p>2 Unit 2: Discussing Routines and Schedules (アクティブラーニング：グループワーク) 習慣や予定について話し合う</p> <p>3 Unit 3: Asking about and Giving Company Information, Vocabulary Quiz (アクティブラーニング：グループワーク) 会社について質問する、小テスト</p> <p>4 Unit 4: Making Small Talk; Making Suggestions (アクティブラーニング：グループワーク) 短い会話、提案をする</p> <p>5 Unit 5: Answering the Phone; Taking Messages on the Phone (アクティブラーニング：グループワーク) 電話を受ける</p> <p>6 Unit 6: Describing and Comparing Products (アクティブラーニング：グループワーク) 商品の説明・比較</p> <p>7 Unit 7: Making Arrangements; Making a Telephone Call; Checking Information (アクティブラーニング：グループワーク) 予約を取る、電話をかける、情報を確認する</p> <p>8 Unit 8: Getting Directions (アクティブラーニング：グループワーク) 場所への行き方を尋ねる</p> <p>9 Unit 9: Describing a Process in Sequences; Ordering a Product; Checking and Confirming, Vocabulary Quiz (アクティブラーニング：グループワーク) 手順を説明する、商品を注文する</p> <p>10 Unit 10: Talking About Graphs and Data (アクティブラーニング：グループワーク) グラフやデータについて話す</p> <p>11 Unit 11: Confirming Next Step; Talking about Future Plans; Expressing Uncertainty (アクティブラーニング：グループワーク) 次の手順を確認する、将来の予定や曖昧な事柄について話す</p> <p>12 Unit 12: Entertaining Guests; Offering, Accepting and Refusing Food; Giving and Receiving Compliments, Vocabulary Quiz (アクティブラーニング：グループワーク) 接客・食事中の会話表現、クレームの応対、小テスト</p> <p>13 Review of Unit 1-12 (アクティブラーニング：グループワーク) Unit1-12の振り返り、復習</p> <p>14 Role-Play Preparation (アクティブラーニング：ロールプレイ) ロールプレイ準備</p> <p>15 Role-Play Presentations / course wrap-up (アクティブラーニング：ロールプレイ) ロールプレイ発表</p>
学習成果・到達目標・基準	◎E：英語を使って商品の説明や簡単なサービスの提案など、基本的な英語での発信ができる。 ◎E：自分の職場や仕事内容について英語で説明できる。 ◎D：ビジネスシーンにおいて使用される表現を理解し、予約を取ったり電話を受けたりするやり取りができる。
事前・事後学習	(事前学習) プレゼンテーションの準備(原稿のライティング、発表の練習など。30分) Prepare for their presentations (writing and editing their scripts, practice reading their scripts out loud etc.). (30 minutes)

	<p>(事後学習) 授業内で扱った重要語句や文法事項の復習 (30分) Homework is required, and should be a review of target language studied in class. (30 minutes) Towards the end of the semesters, students are expected to continue work on their presentations out of class</p>
指導方法	<p>会社の説明、タスクの手順の確認など、授業ごとに様々なビジネスシーンでの表現を学び、練習します。学期末にはロールプレイの発表と定期試験を実施します。ロールプレイでは電話での打ち合わせの予約、会社や自分のポジションについての説明などのシチュエーションに沿って原稿を作成し、発表します。 Each lesson focuses on one unit from the textbook. At the end of the semester, the students' ability is assessed via a final exam during official exam week. [Role-plays] Students may choose one of the following topics: scheduling a meeting by phone, then changing the time and day of the meeting because the other person already has plans for then; or introducing themselves and a company of their choice (fictional or non-fictional) to someone they have met at a business fair, and using small talk. フィードバックの方法：ロールプレイ実施の際、発表および原稿に対し口頭・紙面にてフィードバックを行います。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>E：ロールプレイの発表および原稿で評価する。 D：小テストや定期試験、宿題への取り組みで評価する。 Role-play presentations (ロールプレイ発表) 20% Final exam (定期試験) 40% Vocabulary quizzes (単語クイズ) 20% Homework (宿題) 10% Participation (授業内外での貢献度) 10%</p>
テキスト	Get Ready for International Business 1 (Macmillan Education, 2013)
参考書	授業の際に指示する
履修上の注意	グローバル化の進む社会での基礎を作る授業です。積極的に取り組み英語での発信力を高めましょう。毎回辞書を用意すること。
アクティブ・ラーニング	グループワーク(毎回) ロールプレイプレゼンテーション(14-15週)
ICT・オープンエデュケーションの活用	Classroom等を通してプレゼン資料の提出

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	総合：選択
担当教員			
中村公子			
ナンバリング：G26C32	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>(授業概要) この授業ではSDGsに基づいた観点から、世界各地で起こっている様々な問題について考える。環境、社会、経済などのグローバルな課題を知り、解決にむけての自らの考えを構築・表現できる力の獲得を目指す。</p> <p>(授業目標) ◎C：地球市民の一人としての自覚を持ち、グローバル社会のさまざまな解決策を探ることができる。 D：世界各地で起こっている様々な問題についての正しい知識を身につける。 ○E：自らの考えを英語で発信する力を身につける。</p>		
授業計画	1	Course Orientation、Chapter 1 Global Perspectives Getting to know the SDGs	
	2	Chapter 1 Global Perspectives SDGs' seventeen goals (グループワーク)	
	3	Chapter 2 Climate Change What can we do to tackle climate change?	
	4	Chapter 2 Climate Change Making your own action plans (グループワーク)	
	5	Chapter 6 Hunger Reducing our food waste	
	6	Chapter 6 Hunger Making your own action plans (グループワーク)	
	7	Chapter 9 Refugees Where do you belong?	
	8	Chapter 9 Refugees Making your own action plans (グループワーク)	
	9	Chapter 12 Plastic Waste Plastic Waste Campaign	
	10	Chapter 12 Plastic Waste Making your own action plans (グループワーク)	
	11	Chapter 13 Shopping Buying it forward	
	12	Chapter 13 Shopping Making your own action plans (グループワーク)	
	13	Chapter 14 Partnership Together in the face of disaster	
	14	Chapter 14 Partnership Create your own SDGs Project	
	15	Presentation Share your own SDGs Project (プレゼンテーション)	
学習成果・到達目標・基準	◎C：SDGsの視点を養い、それぞれの問題に対する解決策を主張、ディスカッションできる。 D：社会問題に関する語彙を増やし、英語で書かれたグローバルなニュースを正しく理解できる。 ○E：自らのアイデアを適切な英語を用いてまとめ、それをプレゼンテーションという形で発信できる。		
事前・事後学習	事前学習：語彙の意味を確認し、Readingの内容を自分なりにまとめる。時事問題に関心を持って新聞やニュースに耳を傾ける。(60分程度) 事後学習：教科書のタスクに取り組みながら、インターネットや書籍など様々な手段を用いて自らの意見をまとめ、発表に備える。(60分程度)		
指導方法	1語1句意味をとらえて読み進めるのではなく、英文の大意をつかむ方法で、これまでより長くアカデミックな文章を読みこなせるよう指導する。各ユニットごとに内容に関連するSDGsの問題の実情を各自がリサーチし、解決策を提案する。提案内容はグループ内で発表し、それを基にディスカッションを行う。		
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：課題レポートや発表の内容から評価する。 D：提出物の内容、定期試験から評価する。 E：ディスカッションでの発言や課題内容から評価する。		

	課題・提出物 40% 定期試験 30% 授業貢献度(発言内容、参加度) 20% 小テスト 10%
テキスト	Living as Global Citizens : An Introduction to the Sustainable Development Goals 地球市民として生きる：英語で学ぶSDGs実践入門 小関一也・Kevin M. McManus(2021) 南雲堂
参考書	
履修上の注意	日頃から時事や世界のニュースに関心を持つよう心掛けましょう。また、それらの報道に対する自らの考えをまとめる習慣をつけましょう。
アクティブ・ラーニング	グループワーク ディスカッション プレゼンテーション
ICT・オープンエデュケーションの活用	Google Classroom Zoom

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
東祥子			
ナンバリング：G16C33	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>(授業概要) 基礎フランス語の授業です。語学と同時に文化・国民性にも触れて、フランス語は勉強ではなく文化の一部であり、生きていく・使うものという事を念頭において、楽しく学びます。常に<参加型>の授業です。講義ではなく、[話そう、聞き取ろう、答えよう]という形式で、簡単な会話の授業を行います。教室に入ったら、フランスの世界！を実感。旅行、日本における国際機関、ホテル業、観光業、飲食業（調理場）で実際役立つやり取りが出来るようなロールプレイを繰り返します。一年間で基礎フランス語をしっかりとマスターし、話す・聞く・読む・書くと言った4技能をしっかりと学習・理解して「参加しよう、話そう、コミュニケーションをとりよう！」が指導目標です。楽しく基礎会話力をつけていきます。</p> <p>(授業目標) ○B：フランス語を使ってコミュニケーションをする意欲を深める。 D：フランスの文化や社会を知り、日本との違いを確認して、視野を広げることができる。 ◎E：挨拶、願望、意思を伝えるフランス語の基本表現を操作できる。</p>
授業計画	<p>1 オリエンテーション 授業の概要 フランスってどんな国？ 挨拶 1</p> <p>2 Lecon 1 アルファベ アルファベット、読み方のルール 発音の仕方 挨拶 2</p> <p>3 Lecon 1 敬称・自己紹介 自己紹介「私は～です」 数字(1～10) 自分の名前をアルファベットで一文字ずつフランス語で言う</p> <p>4 Lecon 2 表現 色々な表現 「ありがとう」 「どういたしまして」 「どうぞ」 「お願いいたします」等 数字(11～20)</p> <p>5 Lecon 2 冠詞・名詞 女性名詞、男性名詞、リエゾンの仕組み 曜日 数字復習(1～20)</p> <p>6 Lecon 3 主語人称代名詞と動詞 動詞の活用 文章を作る 月名 数字(21～30)</p> <p>7 Lecon 3 動詞 etre 不規則動詞の活用 自己紹介(国籍・職業) 数字(31～40)</p> <p>8 Lecon 4 動詞 avoir avoirの様々な表現 場所を表す前置詞 数字復習(1～40)</p> <p>9 Lecon 4 部分冠詞 表現「～がある」 語彙 数字(41～50)</p> <p>10 Lecon 5 er 動詞 動詞：好む・住む・食べる・働く・買う・勉強する・探す・歩く 数字(51～60)</p> <p>11 Lecon 5 疑問文・否定文 「～ですか？」疑問文 「～ではありません」否定文 数字復習(1～60)</p> <p>12 Lecon 5 ir 動詞 動詞：選ぶ・終わる</p>

	<p>13 数字(61~70) Lecon 6 形容詞の性と数 男性形、女性形、複数形の作り方 数字(71~80)</p> <p>14 Lecon 6 命令文 「~しなさい」命令文 数字復習(1~80)</p> <p>15 Revisions 復習回 今まで学んだフランス語をつかってロールプレイ</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>学年末には実用フランス語検定5級を習得するレベルまで達する。5級受験用練習問題も扱う。</p> <p>○B：フランス語圏の人と臆せず基本的なコミュニケーションができる。</p> <p>D：フランスだけでなく外国に関心を持ち、日本を今までと違う角度から見るができる。</p> <p>◎E：基本的なフランス語の表現ができる。</p>
事前・事後学習	<p>毎日学習：前回学んだ講義内容を参考に、発音を意識してテキストを音読し、文章を覚える。(毎日15分程度)</p> <p>事後学習：今回学んだ文法を理解して練習問題を解く(30分程度)</p>
指導方法	<p>教科書の内容に沿って、文法を分かり易く説明して理解させる。文字の読み方をしっかり確認しながらフランス語を声に出して発音させる。実際にロールプレイで全員が参加してコミュニケーションを取りながら会話の練習をする。目や頭ではなく、口と耳をフル回転して楽しくフランス語身に付けていく。</p> <p>フィードバックの方法：練習問題を皆で確認する。フランス語での質疑応答で理解度を確認する。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>B：間違いを恐れずに相手に伝えるという意欲を評価する。</p> <p>D：授業での課題・筆記試験を評価する。</p> <p>E：授業での口頭の受け答えを評価する。</p> <p>授業での課題20%、定期試験60%、授業態度20%</p>
テキスト	<p>「Ken et Julie」(駿河台出版社) 講師参考資料よりプリントの配布</p>
参考書	<p>講師参考資料 Bescherelle la conjugaison C'est la vie 早美出版社 Mon premier vol Tokyo-Paris 駿河台出版社 Une aventure 早美出版社 パターンで話せるフランス語 ナツメ社</p>
履修上の注意	<p>フランス語の授業を受けに来るのではなく、フランス語を話にくる事を意識しましょう。</p> <p>また毎日の音読で、必ず近い将来、旅行先で、社会人になって仕事場で、街中で、習得したフランス語を活かせるように、自分なりの目標・目的を持って授業に臨みましょう。1回でも欠席するとそれをきっかけに分かなくなるので欠席は極力しないようにしましょう。</p> <p>フランス語は日本において日常触れている身近な言葉です。</p> <p>英語が外国語として主流の日本で、実はフランス語も毎日触れている言葉です。</p> <p>多様性が求められ、様々な文化・文明への探求が益々求められる日本社会において、フランス語は教養語ではなく、日常語であり、よく耳にする、見る言葉です。意外にもフランス語は私達の日々の生活に溢れています。レストラン、ファッションアイコン、オリンピック・パラリンピックの公用語、多数のアフリカ諸国の公用語、国際機関においてもフランス語は必須です。この機会に1年間でしっかりと基礎フランス語を身に付けましょう。</p> <p>また学年末には実用フランス語検定5級にもトライしましょう。</p>
アクティブ・ラーニング	<p>ロールプレイ</p>
ICT・オープンエデュケーションの活用	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
東祥子			
Subject Code : G16C32	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 基礎フランス語の授業です。語学と同時に文化・国民性にも触れて、フランス語は勉強ではなく文化の一部であり、生きている・使うものという事を念頭において、楽しく学びます。常に<参加型>の授業です。講義ではなく、「話そう、聞き取ろう、答えよう」という形式で、簡単な会話の授業を行います。教室に入ったら、フランスの世界！を実感。旅行、日本における国際機関、ホテル業、観光業、飲食業（調理場）で実際役立つやり取りが出来るようなロールプレイを繰り返します。一年間で基礎フランス語をしっかりマスターし、話す・聞く・読む・書くと言った4技能をしっかり学習・理解して「参加しよう、話そう、コミュニケーションをたろう！」が指導目標です。楽しく基礎会話力をつけていきます。 (授業目標) ○B：フランス語を使ってコミュニケーションをする意欲を深める。 D：フランスの文化や社会を知り、日本との違いを確認して、視野を広げることができる。 ◎E：挨拶、願望、意思を伝えるフランス語の基本表現を操作できる。
--	--

授業計画	1 Lecon 7 所有形容詞・形容詞の比較級 「私の・あなたの・彼の・彼女の…」 「…より～な」 「…と同じくらい～な」 「…ほど～ない」 数字(81～90) 2 Lecon 7 不規則動詞・指示形容詞 vouloir 「～したい」 pouvoir 「～できる」 prendre 「とる、食べる、乗る」 attendre 「待つ」 数字(91～100) 3 Lecon 8 不規則動詞・前置詞+冠詞の縮約 aller 「～へ行く」 venir 「～から来る」 数字復習(1～100) 4 Lecon 8 疑問副詞 疑問文「いつ」「どこで」「どのように」「いくら」「なぜ」？ 5 Lecon 9 近い未来形・近い過去形・疑問代名詞 aller+動詞の原形 venir de+動詞の原形 「誰が」？ 6 Lecon 9 不規則動詞・時を表す前置詞(句) faire 「する」 partir 「出発する」 7 Lecon 10 時刻や天候など日常表現 「何時？」「…時」お天気は？ il faut 「～しなければならない」 8 Lecon 10 疑問形容詞・不規則動詞 「どの～」 「どれ～」 devoir 「しなければならない」 lire 「読む」 connaitre 「知っている」 9 Lecon 11 目的語代名詞 「…を～へ」 10 Lecon 11 代名動詞・不規則動詞 voir 「見る」 savoir 「知る」 11 Lecon 12 過去形 avoir 「～をした」 12 Lecon 12 過去形 etre 「～をした」 13 復習回 revisions+supplement 料理・メニューを読み取ろう フランス料理の特殊な言い回し 14 復習回 Revisions+supplement カフェ・レストランでの注文
------	---

	<p>お店での買い物 復習回 Revisions + supplement 実用フランス語検定5級練習問題 仏検に挑戦しよう！</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>学年末には実用フランス語検定5級を習得するレベルまで達する。5級受験用練習問題も扱う。 ○B：フランス語圏の人と臆せず基本的なコミュニケーションができる。 D：フランスだけでなく外国に関心を持ち、日本を今までと違う角度から見るができる。 ◎E：基本的なフランス語の表現ができる。</p>
事前・事後学習	<p>毎日学習：前回学んだ講義内容を参考に、発音を意識してテキストを音読し、文章を覚える。（毎日15分程度） 事後学習：今回学んだ文法を理解して練習問題を解く（30分程度）</p>
指導方法	<p>教科書の内容に沿って、文法を分かり易く説明して理解させる。文字の読み方をしっかり確認しながらフランス語を声に出して発音させる。実際にロールプレイで全員が参加してコミュニケーションを取りながら会話の練習をする。目や頭ではなく、口と耳をフル回転して楽しくフランス語身に付けていく。 フィードバックの方法：練習問題を皆で確認する。フランス語での質疑応答で理解度を確認する。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>B：間違いを恐れずに相手に伝えるという意欲を評価する。 D：授業での課題・筆記試験を評価する。 E：授業での口頭の受け答えを評価する。 授業での課題20%、定期試験60%、授業態度20%</p>
テキスト	<p>「Ken et Julie」（駿河台出版社） 講師参考資料よりプリントの配布</p>
参考書	<p>講師参考資料 Bescherelle la conjugaison C'est la vie 早美出版社 Mon premier vol Tokyo-Paris 駿河台出版社 Une aventure 早美出版社 パターンで話せるフランス語 ナツメ社</p>
履修上の注意	<p>フランス語の授業を受けに来るのではなく、フランス語を話にくる事を意識しましょう。 また毎日の音読で、必ず近い将来、旅行先で、社会人になって仕事場で、街中で、習得したフランス語を活かせるように、自分なりの目標・目的を持って授業に臨みましょう。1回でも欠席するとそれをきっかけに分からなくなるので欠席は極力しないようにしましょう。 フランス語は日本において日常触れている身近な言葉です。 英語が外国語として主流の日本で、実はフランス語も毎日触れている言葉です。 多様性が求められ、様々な文化・文明への探求が益々求められる日本社会において、フランス語は教養語ではなく、日常語であり、よく耳にする、見る言葉です。意外にもフランス語は私達の日々の生活に溢れています。レストラン、ファッションアイコン、オリンピック・パラリンピックの公用語、多数のアフリカ諸国の公用語、国際機関においてもフランス語は必須です。この機会に1年間でしっかりと基礎フランス語を身に付けましょう。 また学年末には実用フランス語検定5級にもトライしましょう。</p>
アクティブ・ラーニング	
ICT・オープンエデュケーションの活用	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
史 悦			
ナンバリング：G16C35	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) この授業は初めて中国語を勉強する方を対象とし、中国語の発音・声調から、挨拶、別れ、お礼、お詫びなど基本的な会話表現を身に付ける。 (授業目標) ◎B：中国語を使って基本のコミュニケーションができる。 ○D：中国語の正しい発音、基礎的な語彙や文法を身につける。 E：「読む・書く・聞く・話す」の4つの技能のうち「聞く・話す」能力を養成し、「HSK 中国漢語水平考試」(中国国家教育部認可の中国語国家試験)の「1級」レベル到達を目標とする。
授業計画	1 ガイダンス 自己紹介、授業内容、授業の進め方、学ぶ方法に関する説明。 挨拶：こんにちは ピンイン：声調と母音(単母音) 2 発音、挨拶 ピンイン：複合母音(二重母音・三重母音) 挨拶：ありがとう。 発音実習：ピンイン発音練習 3 発音、文法 ピンイン：子音、巻舌音その他の子音 文法：疑問代詞“何に?”、“是”構文、疑問文 本文実習：自己紹介 4 発音、文法 ピンイン：前鼻音n、後鼻音ng の区別、zhi, ch, sh, rの区別 文法：彼女は～です。 本文実習：写真中の人を紹介する 5 発音練習、文法 発音練習：r 化の発音、有気音と無気音の区別 文法：1. 100までの数字 2. 変化を表す“了” 本文実習：家族の状況を紹介する 6 発音練習、文法 発音練習：2音節の声調の組み合わせ① 文法：1. 能願動詞“会”① 2. 形容詞述語文 3. 疑問代詞“どうですか?”① 本文実習：私は中国語が話せませ 7 発音練習、文法 発音練習：2音節の声調の組み合わせ② 文法：1. 日にちの表し方①：月、日、曜日 2. 名詞述語文 3. 連動文 本文実習：誕生日を尋ねる 8 発音練習、文法 発音練習：2音節の声調の組み合わせ③ 文法：1. 能願動詞“想” 2. 金額の表し方 3. 疑問代詞“多少” 本文実習：一週間計画 9 発音練習、文法 発音練習：2音節の声調の組み合わせ④ 文法：……どこですか? ……で～します。 本文実習：友達の仕事を探ねる 10 “有”を使った文 発音：軽声の読み方 文法：“有”を使った文、能願動詞“能” 本文実習：座席の位置を紹介する 11 時間の表し方 発音：軽声の機能 文法：時間の表し方、時間詞と状語 本文実習：1日の生活習慣を探ねる 12 主述述語文 発音：3音節の声調の組み合わせ① 文法：1. 主述述語文 2. 能願動詞“会”② 本文実習：天気状況を尋ねる 13 “在……?”進行形 発音：3音節の声調の組み合わせ② 文法：“在……?”進行形、電話番号の表し方 本文実習：友たちの電話番号を探ねる

	<p>14 発生また完成を表す“了” 発音：3音節の声調の組み合わせ③ 文法：発生または完成を表す“了” 本文実習：1日の活動について尋ねる</p> <p>15 “是……的”構文：強調する 発音：3音節の声調の組み合わせ④ 文法：“是……的”構文：強調する 本文実習：中国語の勉強経歴について会話を練習する</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>◎B：日常会話に使われる基本なフレーズを応用できる。 ○D：語彙力を増やし、簡単な会話を聞き取りができる。 E：日常生活で基本的な中国語の表現ができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：新出単語及び例文を発音し意味を確認する。(30分以上) 事後学習：語彙の暗記、本文を読み、課題(毎回の授業で指示する)を完成させる。Google Classroomを利用し、オンラインで課題を提出する。(60分以上)</p>
指導方法	<p>原則として教科書に基づき授業を進めるが、各課の単語、本文と文法ポイントを指導した後、全体的に復習し、さらに応用練習を通じて、学生一人ひとりが習得できるように努める。 ＜フィードバックの方法＞ Google Classroomを通じて ① 事前課題を提示、② 筆記課題、動画課題提出(学生)、 ③ 指摘事項を記入し返却、④ 質問があった場合には、個別に対応する。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>B：授業態度(授業中の発言・出席・積極性等)で評価する。 D：課題の提出状況と定期試験で評価する。 E：課題の提出状況と定期試験で評価する。</p> <p>定期試験50%、課題30%、授業態度20%</p>
テキスト	<p>『中国語の世界標準テキスト1』北京語言大学出版社編 出版社：株式会社スプリックス 出版日：2018年3月1日 初版第2刷発行 定価：本体¥2,200 (+税)</p>
参考書	<p>以下のものを推薦する。 中日辞典：『小学館中日辞典(第3版)』 日中辞典：『小学館日中辞典(第3版)』 電子辞書 文法参考書：『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書』(相原茂ほか著・同学舎)</p>
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・予習、復習を必ず行う。 ・授業形態：対面授業とオンライン(Zoom)を併用する。 ・出欠確認の方法については初回オリエンテーションの際に説明する。
アクティブ・ラーニング	<p>会話実習：基本の挨拶と自己紹介(ペアワーク、グループワーク)</p>
ICT・オープンエデュケーションの活用	<p>スマートフォン、タブレットPC等</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
史 悦			
ナンバリング：G16C36	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 中国語の発音、語彙、文法、表現などの各要素を丁寧に偏りなく学習し、全体として初級レベルの基礎をしっかりと身に付ける。中国語の勉強と同時に日本と異なる文化への理解を深め、視野を広げる。 (授業目標) ◎B：中国語を使って、場面に適したコミュニケーションをとることができる。 ○D：日常会話に多用される語彙、文法事項を理解し、より複雑な表現ができるように基礎力を養う。 E：「読む・書く・聞く・話す」の4つの技能のうち「聞く・話す」能力を養成し、「HSK 中国漢語水平考試」(中国国家教育部認可の中国語国家試験)の「2級」レベル到達を目標とする。
授業計画	1 復習・概数の表し方 1. 春学期の学習内容の復習 2. 概数の表し方：几、多 本文実習：旅行についての会話 2 疑問文 1. “是不是”を使った疑問文 2. 代詞“每”、疑問代詞“多” 本文実習：基礎情報と運動状況について尋ねて会話をつくる 3 “的”を使った文 1. “的”を使った文 2. “一下”を使った文、副詞“真” 本文実習：どれが誰の物か尋ねて、確認する 4. “是……的”構文 1. “是……的”構文:行為を強調する。 2. 時間を表す：……時 本文実習：中国語の勉強経歴について話す 5. 副詞 1. 副詞：“就”“還”① 2. “有点儿” 本文実習：ある物事に対する見方を尋ねる 6. 関連詞 1. 疑問代詞“怎么？” 2. 原因表し関連詞 本文実習：“怎么”を用いてを練習する 7. 場所、時間、目的の距離を表す 1. 場所、時間、目的の距離を表す。 2. 副詞“就”“還”② 本文実習：お誕生日のお祝いの仕方について尋ね、話す 8. 兼語文、動詞の重ね型 1. 疑問文“……，好??” 2. 兼語文 3. 動詞の重ね型 本文実習：兼語文を用いて練習する 4. ペアワーク：兼語文使って、お互いに練習する 9. 結果補語、順序を表す 1. 結果補語 2. 順序を表す“第～” 本文実習：自分の趣味について話す 10. 命令文 1. 命令文：“不要……了” / “別……了” 2. 介詞：“对” 本文実習：“对”を使って会話を作る 11. 比べるを表す (ペアワーク) 1. 比べるを表す“比”構文① 2. 定語になる動詞 3. 助動詞“可能” 本文実習：“比”の構文を用いての会話 12. 状態補語 1. 状態補語 2. 比べるを表す“比”構文 本文実習： ① “比”の構文

	<p>13. ②「A比B+V+得+adj 」、「A+V+得+比B+adj 」の文型を使い、練習する状態の表し方</p> <p>1. アスペクト助詞“着”</p> <p>2. 反語文“不是……??”</p> <p>3. 介詞“往”</p> <p>本文実習：“着”を用いて写真の内容を述べる</p> <p>14. 経験を伝えるときに使う表現</p> <p>1. アスペクト助詞“過”</p> <p>2. 関連詞“……但是……”</p> <p>3. 動量詞“次”</p> <p>本文実習：“過”を用いて自身が経験した事を話してみる</p> <p>15. 動作の状態の表し方</p> <p>1. 動作の状態“要……了”</p> <p>2. “都……了”構文</p> <p>本文実習：新年の計画について、話してみる</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>◎B：前期の学習に引き続き、様々な場面で実用的な会話ができる。</p> <p>○D：「ピンイン」を正確に読める、語彙力を増やし、本文の内容を正しく理解できる。</p> <p>E：最低限でも学んだ基本な文法を使って、簡単な自己紹介文を作成することができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：新出単語及び例文を発音し意味を確認する。(30分以上)</p> <p>事後学習：語彙の暗記、本文を暗唱し、課題(毎回の授業で指示する)を完成させる。Google Classroomを利用し、オンラインで課題を提出する。(60分以上)</p>
指導方法	<p>原則として教科書に基づき授業を進めるが、各課の単語、本文と文法ポイントを指導した後、全体的に復習し、さらに応用練習を通じて、学生一人ひとりが習得できるように努める。</p> <p><フィードバックの方法> Google Classroomを通じて</p> <p>① 事前課題を提示、② 筆記課題、動画課題提出(学生)、③ 指摘事項を記入し返却、④ 質問があった場合には、個別に対応する。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>B：授業態度(授業中の発言・出席・積極性等)で評価する。</p> <p>D：課題の提出状況と定期試験で評価する。</p> <p>E：課題の提出状況と定期試験で評価する。</p> <p>定期試験50%、課題30%、授業態度20%</p>
テキスト	<p>『中国語の世界標準テキスト—2』北京語言大学出版社編</p> <p>出版社：株式会社スプリックス</p> <p>出版日：2015年8月1日 初版第1刷発行</p> <p>定価：本体¥2,350 (+税)</p>
参考書	<p>以下のものを推薦する。</p> <p>中日辞典：『小学館中日辞典(第3版)』</p> <p>日中辞典：『小学館日中辞典(第3版)』</p> <p>電子辞書</p> <p>文法参考書：『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書』(相原茂ほか著・同学舎)</p>
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・必ず予習復習をする。 ・授業形態：対面授業とオンライン(Zoom)を併用する。 ・出欠確認の方法については初回オリエンテーションの際に説明する。
アクティブ・ラーニング	<p>会話実習：実用的な会話に応用する。(ペアワーク、グループワーク)</p>
ICT・オープンエデュケーションの活用	<p>スマートフォン、タブレットPC等</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
姜 珞嬉、姜 景宇			
ナンバリング：G16C37	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) ハングル(韓国語の文字)の読み書きを練習し、基本文型の習得や応用練習を通じて韓国語の基礎をしっかりと学ぶ。また、韓国語での基礎表現に自信を持てるように、簡単な日常会話や表現ができるように演習を重ねる。 (授業目標) A：学習目標に興味を持ち、積極的に参加することができる。 ◎B：基本的な日常会話を覚え、正しい韓国語を話すことができる。 C：学習内容の応用練習を通じ、学習問題を解くことができる。 ○D：語彙力を増やし、聞き取りができるようになる。 E：様々な教室活動の中で自分の考えを取り入れて表現することができる。
授業計画	<p>1 ガイダンス及び文字と発音(基本母音) 授業内容と計画などを紹介 韓国語の自己紹介&挨拶の表現と練習(はじめまして。名前+と申します) 韓国語文字(ハングル)の紹介と基本母音字(10個)習得</p> <p>2 文字と発音(合成母音) 基本母音字(10個)復習 合成母音字(11個)習得 授業前に小テスト：基本母音確認</p> <p>3 文字と発音(基本子音) 基本母音・合成母音の復習 基本子音の(14個)の習得 授業前に小テスト：基本母音、合成母音確認</p> <p>4 文字と発音(濃音、終声音) 基本母音・子音・合成母音の復習 濃音(5個)と終声音(パッチム)の習得 授業前に小テスト：基本母音、合成母音、基本子音確認</p> <p>5 文字と発音(総合練習、ハングル読む練習、自分の名前をハングルで書いてみること)、挨拶表現 ハングルの読み書き総合練習・確認 挨拶表現紹介・教室用語紹介 授業前に小テスト：ハングル読み書き総合確認</p> <p>6 第1課 私は日本人です(文法説明) 挨拶・自己紹介 助詞：～は 名詞+～です。名詞+～ですか？(丁寧語) 授業前に小テスト：ハングル読み書き確認</p> <p>7 第1課 私は日本人です(会話文練習) 1課文法内容復習 会話文実習(自己紹介) 自己紹介プレゼンテーション 授業前に小テスト：1課文法確認</p> <p>8 第2課 日本人ではありません(文法説明) 助詞：～が 否定の言い方(～ではありません) 名詞+～ではありません(丁寧語) 授業前に小テスト：1課会話内容復習</p> <p>9 第2課 日本人ではありません(会話文練習) 2課文法内容復習 会話文実習 授業前に小テスト：2課文法確認</p> <p>10 第3課 それは何ですか(文法説明) 名詞+～です。名詞+～ですか(カジュアル&インフォーマル丁寧語) 名詞+～ではありません(カジュアル&インフォーマル丁寧語) 授業前に小テスト：2課会話内容復習</p> <p>11 第3課 それは何ですか(会話文練習) 3課文法内容復習 会話文実習 授業前に小テスト：3課文法確認</p> <p>12 第4課 約束があります(文法説明) 存在の表現(丁寧語、カジュアル&インフォーマル丁寧語) あります。います。／ありません。いません。 ありますか。いますか。／ありませんか。いませんか。</p>

	<p>13 授業前に小テスト：3課会話内容復習 第4課 約束があります (会話文練習) 4課文法内容復習 会話文実習 授業前に小テスト：4課文法確認</p> <p>14 第5課 会社はどこにありますか (文法説明) 位置を表す表現 ～はどこにありますか？ ～にあります 授業前に小テスト：4課会話内容復習</p> <p>15 第5課 会社はどこにありますか (会話文練習) 5課文法内容復習 会話文実習 授業前に小テスト：5課文法確認</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>A：ハンゲルの読み書きや韓国語に抵抗なく勉強することができる。 ◎B：韓国語で挨拶や自己紹介ができる。 C：日にち・値段・番号などを読むことができる。 ○D：簡単な質問にはい・いいえと答えることができる。 E：自分の感情を形容詞を使い韓国語で表現できる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：教科書の語彙を予習として覚えること。(20分) 教科書の文法内容を読んで学習内容について調べること。(5分) QRコードの音声聞きながら実際に声を出して発音の練習をすること。(10分)</p> <p>事後学習：教科書の文型練習や応用練習を解いてみること。(20分) QRコードの音声聞きながら声を出して練習し、内容を覚えること。(10分) 覚えにくい語彙や文法内容をノートに書きながら整理すること。(10分)</p>
指導方法	<p>教科書をメインにして順序よく進め、内容によりパワーポイント等を使用する。 状況に応じ一方的な講義ではなくグループワーク、実習、プレゼンテーション等を積極的に取り入れる。 フィードバックの仕方：課題については返却の際に個別対応する。小テストを行い、採点・返却時に解説を行う。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>A：参加態度や授業貢献度を評価する。 B：授業中の参加態度及び質疑対応を評価する。 C：小テスト、課題を評価する。 D：定期試験を評価する。 E：提出物を評価する。</p> <p>定期試験50%、課題30%、授業への参加態度・貢献度20%</p>
テキスト	李志暎『できる韓国語 初級 I』DEKIRU出版, 2018年5月1日新装版
参考書	
履修上の注意	<p>毎回の授業内容が大事ですので、やむを得ない事情以外には出席してください。 予習・復習をとぎれることなく積み重ねていきましょう。 授業に積極的に参加すること。</p>
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション、グループワーク (状況に応じて異なる)
ICT・オープンエデュケーションの活用	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
姜 珞嬉、姜 景宇			
ナンバリング：G16C38	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 教科書に沿って簡単な日常会話を学び、自分の意見や考えなどを伝える文ができるように練習を重ねる。 【授業目標】 A：状況に応じグループワークに参加しながら、楽しく韓国語を身に付ける。 ◎B：簡単な韓国語の質問に答えることができる。 C：正しい単語を使い答えることができる。 ○D：基本文型や文法が理解できる。 E：語彙を増やして、自分の意見を表現できる。
授業計画	<p>1 ガイダンスと韓国語1の復習 授業内容と計画などを紹介 韓国語1の復習と総合練習 動詞と形容詞紹介 宿題：動詞暗記 (P73)</p> <p>2 第6課 週末は何をしますか (文法説明) 動詞と形容詞の丁寧語 動詞＋～ます。 / 形容詞＋～です。 動詞＋～ますか? / 形容詞＋～ですか? 並列の表現 (～して、～くて) 授業前に小テスト：動詞暗記確認</p> <p>3 第6課 週末は何をしますか (会話文練習) 6課文法内容復習 会話文を使い練習 授業前に小テスト：6課文法内容確認</p> <p>4 第7課 そんなに遠くありません (文法説明) 動詞と形容詞の否定文 動詞＋～ではありません 形容詞＋～くありません ～から～まで 授業前に小テスト：6課会話内容復習</p> <p>5 第7課 そんなに遠くありません (会話文練習) 7課文法内容復習 会話文を使い練習。 授業前に小テスト：7課文法内容確認</p> <p>6 第8課 いただきますか (文法説明) 漢数詞の習得。 日にち、値段、番号…などの数字を読む 感嘆や同感の表現 (～ですね。～ますね。) 授業前に小テスト：7課会話内容復習</p> <p>7 第8課 いただきますか (会話文練習) 8課文法内容復習 会話文を使い実習 授業前に小テスト：8課文法内容確認</p> <p>8 第9課 釜山までどうやって行きますか (文法説明) カジュアル (インフォーマル) 丁寧語習得 ～です。～ます。 授業前に小テスト：8課会話内容復習</p> <p>9 第9課 釜山までどうやって行きますか (会話文練習) 9課文法内容復習 会話文を使い実習 授業前に小テスト：9課文法内容確認</p> <p>10 第10課 何時からですか (文法説明) 固有数字の習得 時間・回・才・個数…などを数えながら読む 授業前に小テスト：9課会話内容復習</p> <p>11 第10課 何時からですか (会話文練習) 10課文法内容復習 会話文を使い実習 授業前に小テスト：10課文法内容確認</p> <p>12 第11課 いつ日本へ来ましたか (文法説明) 過去形の表現</p>

	<p>13 動詞・形容詞・名詞文それぞれの過去形 授業前に小テスト：10課会話内容復習 第11課 いつ日本へ来ましたか（会話文練習）</p> <p>14 11課文法内容復習 会話文を使い実習 授業前に小テスト：11課文法内容確認 総合復習① 授業前に小テスト：11課内容復習 前期内容復習</p> <p>15 総合復習② 後期内容復習 定期考査準備</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>A：会話文を練習しながら、楽しく覚えられる。 ◎B：カジュアル（インフォーマル）丁寧語を使い話すことができる。 C：過去形が区別できる。 ○D：韓国語の時間、年齢などが理解できる。 E：漢数字・固有数詞を使い話すことができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：教科書の語彙を予習として覚えること。（20分） 教科書の文法内容を読んで学習内容について調べること。（5分） QRコードの音声聞きながら実際に声を出して発音の練習をすること。（10分） 事後学習：教科書の文型練習や応用練習を解いてみること。（20分） QRコードの音声聞きながら声を出して練習し、内容を覚えること。（10分） 覚えにくい語彙や文法内容をノートに書きながら整理すること。（10分）</p>
指導方法	<p>教科書をメインにして順序よく進め、内容によりパワーポイント等を使用する。 状況に応じ一方的な講義ではなくグループワーク、実習、プレゼンテーション等を積極的に取り入れる。 フィードバックの仕方：課題については返却の際に個別対応する。小テストを行い、採点・返却時に解説を行う。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>A：授業の参加態度や授業貢献度を評価する。 B：授業中の参加態度及び質疑対応を評価する。 C：小テスト、課題を評価する。 D：定期試験を評価する。 E：プレゼンや提出物を評価する。</p> <p>定期試験50%、課題30%、授業への参加態度・貢献度20%</p>
テキスト	李志暎『できる韓国語 初級 I』DEKIRU出版、2018年5月1日新装版
参考書	
履修上の注意	<p>毎回の授業内容が大事ですので、やむを得ない事情以外には出席してください。 予習・復習をとぎれることなく積み重ねていきましょう。 授業には積極的に参加すること。</p>
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション（状況に応じて異なる）
ICT・オープンエデュケーションの活用	